
時間軸で追うヒトラー演説

ー コーパス分析に基づく語彙的特徴の抽出 ー

高田 博行

1. はじめに

ヒトラーの政治的成功にとって、その演説力が決定的な役割を演じたことはよく指摘される (Kopperschmidt 2003: 183, Beck 2001: 217, 平井正 1995: 100 を参照)。『わが闘争 (上)』(1925 年) の「序言」のなかで、「この世の偉大な運動はいずれも、偉大な文筆家ではなく、偉大な演説家にその進展のおかげをこうむっている」(『わが闘争 (上)』、3-4 頁) とあるように、ヒトラー自身が演説の威力を明確に認識していた。筆者は高田(2006)において、政権掌握(1933 年 1 月)の 7 年以上も前に行われたナチ党集会におけるヒトラーの演説(1925 年 12 月 12 日)を、レトリックとテキスト構成の面から分析した。この初期のヒトラー演説においてすでに、レトリック上の工夫がいたるところに凝らされていて、テキスト上の構成も明確に練られていたことが判明した。また筆者は高田(2008)において、政権掌握後の選挙キャンペーン映画(1936 年 3 月と 1938 年 3 月)のなかに収められたヒトラー演説のカットに注目し、これらのカットには共通する言語的特徴があることを明らかにした。いずれもほんの数十秒にすぎない演説のなかに、白か黒かの選択を迫る「対比法」(Antithese)と、リズムカルな印象を耳に刻む「平行法」(Parallelismus)とが必ず使用されていたのである。この映画の制作者は、このふたつのレトリックの手法を繰り返すことによって、聴衆に対するヒトラー演説の誘導力と操作性を高めることを狙ったものと考えられる。

さて今回の論文は、ヒトラー演説の分析に時間軸を導入して、演説における語彙と表現をヒトラーが時間の経過とともにどのように変化させていったのかを明らかにしようとするものである。政権を掌握する前と後とでは、ヒトラーの使用した語彙と表現にどのような違いがあるのであろうか。

2. コーパスによる分析

2.1 コーパスの構成

本論文がデータとするのは、1920年8月7日（ザルツブルクにおけるドイツ・オーストリア二国間ナチ党会議での演説）から1945年1月30日（総統防空壕で録音され、政権掌握十二周年記念日にラジオ放送されたヒトラー最後の演説）までの四半世紀にわたる合計 558 のヒトラー演説であり、総語数は約 150 万語（1,512,553 語）である。¹⁾ ナチ党が政権についた 1933 年 1 月 30 日を境にして、それまでを第 1 期、それ以後を第 2 期として区分する。さらに、ゲッベルスが党広報部長（Reichspropagandaleiter der NSDAP）となった 1930 年 4 月 27 日²⁾を境として第 1 期内を二分し、第 1 期前半と第 1 期後半を区別する。第 2 期は、第 2 次世界大戦開戦（ポーランド侵攻）の 1939 年 9 月 1 日を境として、前半と後半に分ける。コーパスの内訳は、以下のとおりとなる：

第 1 期：1920 年 8 月 7 日～1933 年 1 月 22 日、全 268 演説、総語数 824,197 語

第 1 期前半：1920 年 8 月 7 日～1930 年 3 月 18 日、全 109 演説、493,217 語

第 1 期後半：1930 年 5 月 9 日～1933 年 1 月 22 日、全 159 演説、330,980 語

第 2 期：1933 年 2 月 1 日～1945 年 1 月 30 日、全 290 演説、総語数 688,356 語

第 2 期前半：1933 年 2 月 1 日～1939 年 8 月 22 日、全 238 演説、463,774 語

第 2 期後半：1939 年 9 月 1 日～1945 年 1 月 30 日、全 52 演説、224,582 語

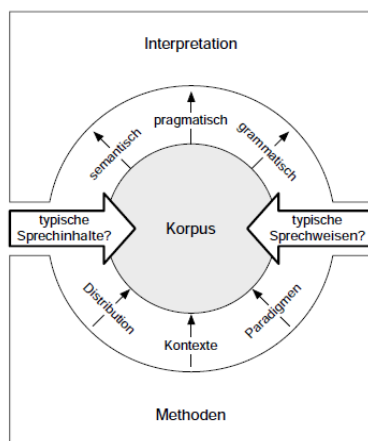
なお、データとしての選択にあたり、ヒトラーの演説が第三者によって報告されているものや、ヒトラーのことが間接話法として書かれている演説（もしくは演説箇所）は排除した。³⁾

-
- 1) この 558 の演説がいつのもので、どの一次資料から取ったものであるかについては、巻末の「演説コーパス内訳」を参照。なお、1924 年に演説が欠けているのは、ミュンヘン一揆失敗のあと、1924 年はほとんどヒトラーが投獄されていた 1 年であるためである。
 - 2) ゲッベルスがこの職に就任して半年足らずの 1930 年 9 月 14 日に、帝国議会選挙でナチ党は第 2 党に躍り出た。
 - 3) 例えば次のような事例をデータとして排除した。*Hierauf berichtete Hitler von Rußland, das wirtschaftlich zerstört ist, vom dortigen 12-Stunden-Tag, von der jüdischen Knute, vom Massenmord an der Intelligenz etc. und erntet damit reichen Beifall. Weiter kam er auf die Berichterstattung des „Kampfs“ über seinen letzten Vortrag zu sprechen.* (1920-4-27、ミュンヘンでのナチ党集会、Jäckel 1980: 127)。*Er war überzeugt, das Bündnis Deutschland-England werde in*

2.2 コーパス分析による「典型的な話し方」の抽出

本論文では、ヒトラー演説における語彙と表現の特徴の変遷を明らかにするために、上記の約 150 万語のデータをコーパスとして、統計学的手法に基づいた考察を行う。その際、「言語使用は、文化ないし社会のあり方と互いに関係して」（Bubenhof 2009: 49）いるという立場を採り、コーパスに典型的に見られる言語使用、つまりデータコーパスのなかで有意差を持って頻出する言語使用のパターンは、「そのテキストの書き手が頻繁に行う言語行為が現れたものであると解釈」（Bubenhof 2009: 154）する。次の図に従って言えば、コーパスから「典型的な話し方」を抽出することを通じて、そのコーパスに「典型的な発言内容」を探ることができる。⁴⁾

図 1：コーパス分析による解釈法（Bubenhof 2009: 154 より）



あるテキストを別のテキストから区別する言語的パターンの集積を「文体」と定義するならば、コーパスを有意差検定に基づき比較することにより、文体として重要なパターンが確認できることになる（Bubenhof/Scharloth [im Druck] を参照）。

gleicher Weise Gestalt werden und die Inbesitznahme ganz Osteuropas als neues deutsches Kolonialgebiet sei nur noch eine Frage der Zeit. (1937-10-3、ビュッケベルクでの帝国収穫感謝祭、Domarus 1965: 739)

- 4) このようにコーパス分析によって抽出された特徴的な言語的パターンを、文化的・社会的な現象を「構成」するものと見る立場を、Bubenhof/Scharloth (im Druck) は「コーパス語用論」(Korpuspragmatik)と呼んでいる。言語の表層を手がかりにして、語用論的な痕跡を追究するわけである。

以下では、各時期におけるヒトラー演説の「典型的な話し方」を語彙レベルを中心に分析する。語彙は、政治的集団を明確に特徴づけ、政治的集団を定義するものである (Grünert 1984: 34 および Bopp 2010: 38, 102 を参照)。その際、コロケーションにも注目し、2 語の共起(連語)関係(Bi-Gramm)のほか、3 語(Tri-Gramm)、4 語(Tetra-Gramm)、5 語(Penta-Gramm)の共起関係も考慮に入れる。なお、本論文でコーパス分析に使用したソフトウェアは、semtracks 研究グループによる „semtracks semantic matrix engine“⁵⁾ および „antconc“⁶⁾ である。コーパスは „TreeTagger“を用いてトークン化して、品詞情報をアノテートしレンマ化した。使用したタグセットは、STTS (Stuttgart-Tübingen-Tagset) である。さらに、評価の形容詞と程度の副詞に属する語をトークンレベルでアノテートした。⁷⁾

2.3 2つの時期におけるレンマの素頻度

第3章以下でコーパスを有意差検定に基づき比較し、各時期のヒトラー演説における語彙・表現上の特徴を追っていくが、その前に、第1期(1920年8月～1933年1月)と第2期(1933年2月～1945年1月)においてヒトラーが最も頻繁に口にしたレンマ⁸⁾をそれぞれ100位まで一覧表の形で示しておこう。次の表1がそれである。⁹⁾ この一覧表から名詞と形容詞について、2つの時期にそれぞれ頻出したものを挙げると次のようになる。名詞としては、第1期は *Volk* 「民族」、*Deutschland* 「ドイツ」、*Mensch* 「人間」、*Jahr* 「年」、*Bewegung* 「運動」、*Million* 「千万」、*Partei* 「党」、*Kampf* 「闘争」、*Zeit* 「時間、時代」、*Kraft* 「力」、*Staat* 「国家」、*Nation* 「国民」、*Herr* 「氏」、*Welt* 「世界」が、第2期は *Volk*、*Deutschland*、*Jahr*、*Zeit*、*Welt*、*Staat*、*Mensch*、*Nation*、*Kampf*、*Mann* 「男」、*Krieg* 「戦争」、*Million*

5) このソフトウェアによる分析の際、研究グループ „semtracks“ の中心的メンバーである Joachim Scharloth 氏(獨協大学准教授)に多大な助言と協力を得ることができた。ここに記して、心よりお礼申し上げる。また、データ処理全般にわたって助言をいただいた Sebastian Bopp 氏(Augsburg 大学)にも、お礼申し上げる。

6) 主として、2語の共起強度を測るため、Tスコアの計算時に用いた。

7) 評価の形容詞については Ebling/Scharloth/Dussa/Bubenhofer (im Druck) を、程度の副詞については Bubenhofer/Scharloth (im Druck) を参照。

8) レンマ (Lemma) とは、いわば辞書の見出し語になっている形のことである。例えば *Buch*, *Buches*, *Buchs*, *Bücher*, *Büchern* という語形は、トークンとしてはそれぞれ別個のものであるのに対して、レンマとしてはすべてが同じ *Buch* であることになる。

9) 表にある「Phase 1」、「Phase 2」とは「第1期」、「第2期」、「Frequenz」とは「(素)頻度」のことである。レンマ *der*、*dieser*、*jeder* 等は単数男性形で代表的に挙げている。

表 1：第 1 期と第 2 期におけるレンマの素頻度（上位 100 位まで）

Phase 1							
Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz
1 der	84670	26 auf	4610	50 oder	2460	76 Kraft	1479
2 sie	35162	27 dann	4607	51 wieder	2404	77 neu	1430
3 sein	26253	28 auch	4483	52 kommen	2380	78 glauben	1405
4 und	22302	29 müssen	4305	53 groß	2322	79 Staat	1404
5 ein	20015	30 nur	4221	54 geben	2276	80 machen	1382
6 es	16279	31 so	4061	55 um	2238	81 immer	1373
7 in	16004	32 als	4049	56 noch	2092	82 politisch	1318
8 wir	13869	33 mit	3837	57 da	2043	83 Nation	1300
9 zu	12733	34 aber	3805	58 leben	1965	84 mein	1278
10 nicht	12683	35 für	3708	59 durch	1954	85 erst	1268
11 werden	12639	36 was	3611	61 sehen	1948	86 ja	1268
12 haben	12047	37 sagen	3434	62 Bewegung	1875	87 Herr	1235
13 daß	11515	38 alle	3425	63 gehen	1858	88 stehen	1229
14 er	11178	39 Deutschland	3417	64 vor	1845	89 schon	1215
15 dieser	10022	40 heute	3390	65 nach	1828	90 Welt	1200
16 ich	7520	41 viel	3318	66 jeder	1816	91 wissen	1195
17 Volk	7397	42 Mensch	3208	67 denn	1774	92 sollen	1187
18 können	6789	43 ander	3105	68 weil	1675	93 nichts	1177
19 wenn	6523	44 wie	2918	69 Million	1638	94 damit	1153
20 von	6041	45 Jahr	2724	70 nun	1615	95 gut	1142
21 man	5635	46 sondern	2692	71 Partei	1611	96 bei	1135
22 ihr	5015	47 kein	2664	72 Kampf	1593	97 tun	1116
23 unser	4972	48 wollen	2612	73 du	1590	98 jetzt	1106
24 an	4898	49 ganz	2606	74 Zeit	1494	99 einzeln	1098
25 deutsch	4660	50 aus	2501	75 selbst	1489	100 über	1098

Phase 2							
Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz	Lemma	Frequenz
1 der	68028	26 nur	4065	50 kein	1937	76 über	1194
2 sie	21945	27 für	4036	51 mein	1902	77 hier	1190
3 und	20197	28 so	3902	52 nun	1887	78 erst	1189
4 sein	19583	29 mit	3756	53 wollen	1742	79 Nation	1154
5 in	16018	31 alle	3739	54 wieder	1731	80 sehen	1135
6 ein	15089	32 auf	3619	55 heute	1718	81 Kampf	1091
7 zu	12812	33 aber	3597	56 ganz	1706	82 Mann	1077
8 es	11679	34 wenn	3274	57 geben	1700	83 sollen	1069
9 dieser	10773	35 dann	3035	58 denn	1614	84 Krieg	1063
10 wir	10330	36 Deutschland	2786	59 Zeit	1504	85 glauben	1028
11 werden	9661	37 oder	2589	61 leben	1484	86 wissen	1016
12 haben	9187	38 müssen	2495	62 damit	1453	87 da	1008
13 ich	8866	39 viel	2489	63 neu	1444	88 Million	990
14 nicht	7865	40 Jahr	2443	64 nach	1437	89 stehen	925
15 daß	7668	41 wie	2436	65 jeder	1396	90 gegen	918
16 er	7012	42 ander	2291	66 Welt	1375	91 nationalso	897
17 Volk	5483	43 sondern	2222	67 Staat	1343	-zialistisch	
18 auch	5375	44 man	2178	68 reich	1339	92 damals	892
19 ihr	5269	45 durch	2149	69 ja	1310	93 unter	892
20 deutsch	5250	46 was	2121	70 sagen	1310	94 bei	882
21 unser	4923	47 vor	2058	71 Mensch	1278	95 machen	879
22 von	4811	48 um	2034	72 immer	1271	96 weil	874
23 können	4786	49 aus	2016	73 kommen	1231	97 mögen	852
24 als	4352	50 groß	1965	74 selbst	1226	98 gut	847
25 an	4108	50 noch	1955	75 schon	1214	99 solcher	846
						100 eigen	841

が 100 位以内に入っている。形容詞としては、第 1 期は *deutsch* 「ドイツの」、*ander* 「他の」、*politisch* 「政治的な」、*erst* 「第 1 の」、*einzel*n 「個々の」が、第 2 期は *deutsch*、*ander*、*groß* 「大きな」、*reich* 「豊かな」、*erst*、*nationalsozialistisch* 「国民社会主義の」、*gut* 「良い」、*eigen* 「自らの」が 100 位以内である。これらからすでに、この 2 つの時期の間の共通点と相違点がある程度うかがえる。この共通点と相違点を、以下の論述で有意差検定に基づき明らかにしていこう。

3. 特徴的な名詞の変遷

3.1 「特徴語」の表し方について

ヒトラー演説の第 1 期（1920 年 8 月～1933 年 1 月）と第 2 期（1933 年 2 月～1945 年 1 月）とを比較して、対数尤度比（Log-Likelihood Ratio: LLR）による検定を行うことにより、各時期に典型的な名詞の「特徴語」を抽出した。¹⁰⁾ その結果、上位 20 位までの名詞の特徴語は表 2 にある通りである。

表 2：名詞の特徴語（第 1 期 vs 第 2 期）

Phase 1 p < 0.0001					Phase 2 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
Mensch	547.04	3205	1276	2.10	1 Wehrmacht	304.08	14	252	21.55
Bewegung	376.85	1869	686	2.28	2 Soldat	288.72	157	532	4.06
Partei	353.97	1599	558	2.39	3 Europa	249.26	147	478	3.89
Boden	311.70	640	116	4.61	4 Vorsehung	239.88	25	238	11.40
Stresemann	281.24	241	1	201.28	5 Frau	228.22	63	312	5.93
Majorität	253.45	225	2	93.96	6 Krieg	224.43	579	1033	2.14
System	236.27	362	40	7.56	7 Churchill	222.00	0	141	*
Republik	231.66	260	13	16.70	8 Roosevelt	220.43	0	140	*
Volkspartei	220.05	219	6	30.48	9 Frieden	208.89	181	490	3.24
Begriff	205.78	490	105	3.90	10 Reich	197.74	615	1036	2.02
Marxismus	201.53	368	57	5.39	11 Aufgabe	196.27	297	638	2.57
Jude	186.63	430	89	4.04	12 Polen	195.67	39	237	7.28
Kraft	183.45	1457	641	1.90	13 Land	183.07	335	671	2.40
Bürgertum	181.60	295	38	6.48	14 Gemeinschaft	175.13	114	353	3.71
Idee	150.48	551	169	2.72	15 Umstand	173.80	33	207	7.51
Nationalismus	149.18	185	13	11.89	16 Luftwaffe	163.75	0	104	*
Kopf	145.70	353	77	3.83	17 Führung	161.67	239	518	2.60
Papen	142.65	132	2	55.12	18 Ausmaß	149.11	7	124	21.21
Wahl	130.98	252	42	5.01	19 Vorschlag	143.33	4	110	32.93
Tagesfrage	130.92	116	1	96.88	20 Präsident	137.12	6	111	22.15

まず、この表の見方を説明しておこう。左側の Phase 1（第 1 期）の一覧表には、第 1 期を対象コーパスそして第 2 期を参照コーパスとした場合に、第 1 期の特徴語として抽出される名詞が上位 20 位まで並んでいる。レンマ *Mensch* の場合、第 1 期には 3205 回（左から 3 列目の数字¹¹⁾）、第 2 期には 1276 回（左から 4 列目の数字¹²⁾）出現していて、その「対数尤度比」（LLR）¹³⁾ は 547.04（左から 2 段目の

10) 言語の特徴を知ろうとする場合、分析対象とするコーパスを「対象コーパス」と呼び、比較の対象とするコーパスを「参照コーパス」と呼ぶ。「対象コーパス内で一定水準以上の頻度があると同時に、参照コーパスと比較して顕著に高頻度である」（石川 2008: 98 頁）語を、「特徴語」と呼ぶ。したがって、「特徴度」とは、二つのコーパス間の「頻度差の顕著性の度合い」（石川 2008: 98 頁）のことである。

11) 「F: Ph 1」とは、Phase 1（第 1 期）における頻度（Frequenz）という意味である。

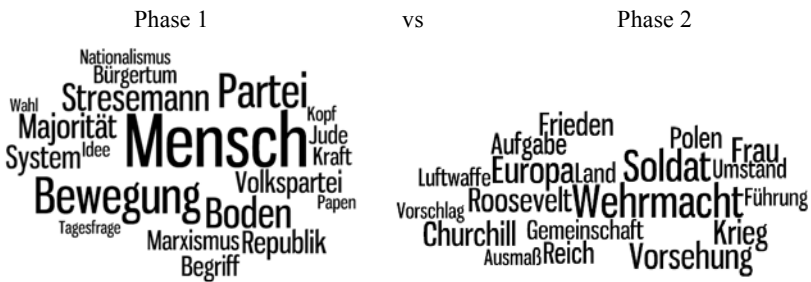
12) 「F: Ph 2」とは、Phase 2（第 2 期）における頻度（Frequenz）という意味である。

13) 言語コーパスを対象とする場合には、特徴度（頻度差の顕著性）を検定する方法として、対数尤度比のほうがカイ二乗検定（chi-square）よりも優れているとされる（石川 2008: 99 頁を参照）。

数字) である。0.01%水準の場合¹⁴⁾、棄却限界値となる対数尤度比は 15.13 である。この数値をはるかに超え、他の名詞と比べて最も高い尤度比を示すレンマ *Mensch* は、第 2 期と比べて第 1 期において最も大きな有意差を持つ特徴的な名詞となっている。表の上にある $p < 0.0001$ とは、この表に掲載されているレンマすべてが、0.01%水準を下回る（この水準をクリアしている）ことを表している。なお、表 2 の右端の列の RFF (Relative Frequency Function) とは相対的な頻度のことであり、例えばレンマ *Mensch* は、第 1 期における頻度は第 2 期における頻度より 2.1 倍多く出現していることを表す。¹⁵⁾ 表 2 の右半分は、今述べたのと同様のことが Phase 2 (第 2 期) について記載されている。このふたつの一覧表を比べて言えることは、第 1 期の一覧表にある名詞は第 2 期になると特徴的な語彙ではなくなって、第 2 期の一覧表にある名詞は今度は第 2 期にとって特徴的な語彙となったということである。

この表 2 の結果を、タグクラウド¹⁶⁾ によってビジュアル化し、直感的に違いがわかりやすいように表示し直したのが図 2 である。この図では、それぞれの時期に出現頻度の高い単語ほど大きく描かれている。(なお、単語の配置、つまり左右上下および単語間の隔たりについては恣意的であり、意味はない。)

図 2：名詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期 vs 第 2 期）



14) 有意な差があるという判断が過誤である可能性が、0.01%以下しかないという意味である。

15) レンマ *Mensch* が第 1 期の総語数 824,197 語のうち 3205 回出現しているということは、3205 を 824,197 で割った頻度、つまり 1000 語あたり 3.89 回出現していることになる。一方、レンマ *Mensch* が第 2 期で総語数 688,356 のうち 1276 回出現しているということは、1276 を 688,356 で割った頻度、つまり 1000 語あたり 1.85 回出現している。この 3.89 回という頻度は 1.85 回という頻度の 2.1 倍となる。

16) 英語で Word cloud、ドイツ語で Wortwolken と呼ばれる。使用したのは、<http://www.wordle.net/> で提供されているプログラムである。

3.2 第1期における特徴

では、上の表1と図2を見ながら、まず第1期(1920年8月～1933年1月)に典型的な名詞について考察を行ってみよう。ここに抽出された特徴語には、権力掌握に至る途上にある第1期の歴史的背景と明確に関連づけられるものが多い。まさに、言語使用が「文化ないし社会のあり方と互いに関係して」(Bubenhof 2009: 49) いることが裏づけられる。第1期の歴史的経過を特に明確に反映している特徴語をつなげて表現するならば、次のような時代が第1期であったことになる。ヒトラーの率いるナチ党は、「国民主義」(*Nationalismus*)を「党」(*Partei*)の「理念」(*Idee*)とし、それらの「概念」(*Begriff*)¹⁷⁾に言及する。ナチ党は、ナチ「運動」(*Bewegung*)をうまく展開し、「選挙」(*Wahl*)において勝利することを目指す。その際に、ヒトラーが「日々の問題」(*Tagesfrage*)として批判の矛先としたのは、ワイマール「共和国」(*Republik*)の「体制」(*System*)、とくにドイツ「人民党」(*Volkspartei*)を結成してワイマール共和国で首相と外相を務めた「シュトレゼマン」(*Stresemann*)の政策であり、攻撃の対象は「マルクス主義」(*Marxismus*)と「ユダヤ人」(*Jude*)であった。

第4位の特徴語 *Boden* 「土壌」は、ダレ(Richard Walter Darré)の著書(1930年)によってナチズムのキーワードになった *Blut und Boden* 「血と土」という組み合わせでは、2回(1933-1-03)しか使われていない。*Boden* は、多くの場合 *Grund und Boden* 「土地と土壌」という表現で使われている(640回中270回)。第6位の *Majorität* 「多数」をヒトラーは、議会における多数派という意味よりも、民衆・大衆という多数の者たちという意味で使い、多くの場合に否定的な意味を付与している。¹⁸⁾ 第13位の *Kraft* 「力」という語は、*die Kraft der/einer Nation* 「国民の

17) ヒトラーは演説で *Begriff* を引き合いに出す場合、*Nationalismus* 「国民主義」、*Sozialismus* 「社会主義」、*national* 「国民の」という語を最も多く用いている。例をひとつずつ挙げておこう：*Der Begriff Nationalismus ist in der letzten Konsequenz nichts anderes als die Hingabe des eigenen Ichs zu Gunsten der Gesamtheit.* (1930-11-5、マンハイム、Nibelungensaal)；*Wenn ich den Begriff Sozialismus in diese einzige Grundformel hineinpresse, mit dieser einzigen Doktrin betaste, dann [...] (1930-11-13)；Ein einzelner hat [...] dem deutschen Volk mit diesem neuen Reich auch wieder einen neuen nationalen Begriff geschenkt.* (1928-11-9、ミュンヘン、Bürgerbräukeller)。

18) *Wohl mag es den Juden unangenehm sein, wieder die alte Lehre zu hören, daß die Weltgeschichte nicht von der Majorität gemacht wird, sondern von Köpfen.* (1925-12-16、シュトゥットガルト、Liederhalle)；*Wir wollen nicht, daß die Majorität entscheidet, daß der Geist geknebelt wird.* (1928-1-18、メミンゲン、Schiffsaal)。

力」、*die nationale Kraft*「国民の力」、*die Kraft des/eines Volkes*「民族の力」、*die deutsche Kraft*「ドイツの力」、*unsere Kraft*「われわれの力」のように、(ドイツ)民族・ドイツ国民の力に関連して用いられている。第14位の *Bürgertum*「ブルジョア」という語をヒトラーは、プロレタリアートとの対立概念として、ほとんどの場合に否定的な文脈で用いている。¹⁹⁾ 第17位の *Kopf*「頭、頭脳」については、ヒトラーは「頭脳を持つ人」という換喩的な意味において多く使用しており、雑多な大衆のなかから生まれてくる才能ある人物、指導者のことを指す場合に関連づけている。²⁰⁾

第1期にもっとも特徴的である *Mensch*「人間」について、その直前に来る語との共起関係を T スコア²¹⁾ で見てみると、表3のようになる。

表3：第1期における *Mensch* の共起関係 (1L²²⁾)

Phase 1	1L	
Lemma	T-Score	Frequenz
Million	16.73	292
von	12.34	194
einzelnen	11.87	149
dieser	10.72	182
kein	8.67	94
deutsch	7.72	91
ein	5.78	144
aller	5.08	48
jeder	4.87	36
viel	4.72	27
anständig	4.19	18
Handvoll	4.10	17

19) 例えば、*Und diese, das Bürgertum, das auch schon verjudet war, stemmte sich gegen das Anpochen der breiten Massen auf Besserung ihrer Lebenshaltung.* (1923-4-24、ミュンヘン、Zirkus Krone); *Unser Bürgertum hat weder die Kraft gehabt, gegen den Terror der linken Seite vorzugehen, noch aber auch den Willen, diese Kraft einzusetzen, denn die Kraft war an verschiedenen Stellen da.* (1926-2-28、ハンブルク、Nationalclub を前にして); *Das deutsche Bürgertum kann noch so hehre Ideale haben, die Tatsache, daß Deutschland mehr und mehr dem allgemeinen Volksverfall entgegengeht, kann das deutsche Bürgertum nicht leugnen.* (1928-3-21、ミュンヘン、Hackerbräukeller)。

20) *Denn in ihr bestimmt nicht die Lauheit der Majorität, sondern der fähigste Kopf.* (1922-4-12、ミュンヘン、Bürgerbräukeller); *Wenn Sie heute zwei Bauernhöfe ansehen, auf dem einen herrscht Demokratie, und auf dem anderen sitzt ein fähiger Kopf als Führer* (1930-8-10、キール、Lokal „Deutsche Wacht“)。

21) T スコアとは、2つの語の共起関係の有意性を図る統計学的指標である。この値が高いほど、2つの語が偶然ではなく有意に結びついていることを示す。「一般に T スコアが2以上であれば、有意水準の5%を満たし、意味のある組み合わせと解釈される」(石川2008: 110)。

22) 1L とは、対象語の左1語目に来る（つまりは直前に来る）語との共起関係を測定したことを示す。

レンマ *Mensch* は、*Million* 「百万」、*kein* 「まったくない」、*viel* 「多くの」、*Handvoll* 「一握りの」という数量的な意味で用いられると同時に、*einzel* 「個々の」、*alle* 「すべての」、*jeder* 「各々の」という全称としても使われていることがわかる。第2期において *Mensch* の使用がきわめて少なくなったのは、第2期では人が「民族」、「国民」、「兵士」等の語で呼ばれ、*Mensch* という総称が好まれなかったことを示唆している

3.3 第2期における特徴

第2期の名詞の特徴語は、前出の表2および図2を見ればわかるように、*Wehrmacht* 「国防軍」、*Soldat* 「兵士」、*Krieg* 「戦争」、*Luftwaffe* 「空軍」、また *Polen* 「ポーランド」のように戦争に関わる名詞、*Vorschlag* 「提案」、*Roosevelt* 「ルーズベルト」、*Churchill* 「チャーチル」、*Präsident* 「大統領」²³⁾ のように外交に関わる名詞、そして *Führung* 「指導 [部]」、*Reich* 「帝国」、*Land* 「国」、*Gemeinschaft* 「共同体」のように、第三帝国の体制と国家に関わる名詞である。最後に挙げた *Gemeinschaft* に注目してみると、表4にあるように、第1期も第2期も *Gemeinschaft* の直前に来る語としては *dieser* 「この」²⁴⁾ と *neu* 「新しい」がもっとも強固な共起関係をもつが、その強度 (Tスコアの値) はどちらも第2期のほうが高くなっている。「この、新しい」共同体について、ヒトラーは第2期において頻発に語ったのである。

表4: *Gemeinschaft* との共起関係 (1L)

phase 1 1L			phase 2 1L		
Lemma	T-Score	Frequenz	Lemma	T-Score	Frequenz
neu	3.10	10	dieser	7.53	67
dieser	2.91	11	neu	4.31	20
lebedig	2.44	6	unser	4.17	22
groß	2.32	6	groß	3.35	13
unser	2.18	6	menschlich	3.27	11
			verschworen	3.00	9
			unlösbar	2.64	7
			solcher	2.49	7
			nationalsozialistisch	2.48	7
			geschlossen	2.22	5

23) 第2期でヒトラーが「大統領」について語る場合、それは外国の大統領のことである。

24) レンマとしてであるので、*diese* ではなく *dieser* という男性形で代表的に挙げている。以下の表でも同様である。

さらに、20 位以内ではないが、*Volksgemeinschaft* 「民族共同体」という語も、第 1 期と比較して第 2 期の特徴語である (F: Ph1 = 157, F: Ph 2 = 262, LLR 51.89, $p < 0.0001$, RFF = 2.03)。この語についても *Gemeinschaft* の場合と同じ共起関係を調べてみると、表 5 のようになる。

表 5 : *Volksgemeinschaft* との共起関係 (1L)

phase 1 1L			phase 2 1L		
Lemma	T-Score	Frequenz	Lemma	T-Score	Frequenz
deutsch	4.16	19	deutsch	8.38	74
ein	3.64	20	nationalsozialistisch	3.79	15
neu	2.73	8	dieser	3.59	20
gesamt	2.21	5	unser	3.41	15
			ein	3.09	19
			wahr	2.99	9
			neu	2.44	7
			wirklich	2.14	5

この表からわかるのは、*Volksgemeinschaft* が *Gemeinschaft* の場合と異なるのは、*deutsch* と最も強い共起関係をもっていることである。その際、*deutsch* と *Volksgemeinschaft* との共起の強度は、第 1 期よりも第 2 期のほうが確実に高くなっている。また、*Volksgemeinschaft* は第 2 期には *nationalsozialistisch* 「国民社会主義的な」とも強固な結びつきを持っている。²⁵⁾

第 2 期の名詞の特徴語として第 20 位以内に入る語で、まだ論じていない語について見てみよう。第 3 位の *Europa* 「ヨーロッパ」という名詞は、第 2 期にヒトラーが 478 回使用しているうちの約四分の一にあたる 127 回が 2 格形となっている。その 2 格形が修飾する名詞の内訳 (3 回以上のもの) を見ると、ヒトラーはとくにヨーロッパの「安定化」という文脈で語っていることがわかる。*Befriedung* 「平和にすること」(10 回)²⁶⁾、*Erhaltung* 「維持すること」(5 回)、*Rettung* 「救済する

25) 「民族共同体」というスローガンが、階級対立で引き起こされた人びとの孤独感に訴えたことについては、マウ／クラウスニック (1961: 39) を参照。このスローガンが民衆たちの日常生活においてどう捉えられたかについては、フォッケ／ライマー (1984: 31ff.) も参照。

26) *Eure Entscheidung, deutsche Volksgenossen von der Saar, gibt mir heute die Möglichkeit, als unseren opfervollen geschichtlichen Beitrag zu der so notwendigen Befriedung Europas die Erklärung abzugeben [...]*. (1935-1-15、ベルヒテスガーデン、ザールでの国民投票の勝利に際してのラジオ中継演説). *Ich habe über die Ablehnung solcher Einmischungen hinaus versucht, in einer großen Konzession eine Möglichkeit zu geben für die Befriedung Europas, die ich für*

こと」(4回)、*Beruhigung*「鎮静化すること」(3回)のように、意味上ヨーロッパが(「ヨーロッパを平和にする」のように)目的語になっている動作名詞が目立っている。²⁷⁾ 第9位の *Frieden*「平和」という語について、ヒトラーは1938年11月10日に新聞社の代表者たちを前にして演説した際に、次のように述べている。

今年われわれのプロパガンダを通じて [...] 達成したいと考えている課題がいくつかあります。まず第一に、ドイツ国民自身に徐々に準備をさせることです。この数十年間にほとんど平和ということばだけを口にするのを強いられた事情が私にはありました。ドイツの平和の意志と平和の意図をいつも強調することによってでしか、私はドイツ国民のために少しずつ自由を勝ち取り、国民に武装を与えることができなかったのです [...]。そのように数十年にわたって行われた平和プロパガンダにも憂慮すべき面があるのは、もちろんのことです。(1938年11月10日、ミュンヘン、Führerbau)

こう述べて、ヒトラーは新聞において「平和」を強調しないようにする方針を伝えた。では、ヒトラー自身は自らの演説のなかでは「平和」をどれくらい語ってきたのであろうか。年代別に、レンマ *Frieden* (*Friede* という語形も含む) の使用頻度を調べたものが、次の表6である。²⁸⁾

unbedingt erforderlich halte, für eine Befriedung auf ein Vierteljahrhundert [...]. Wir wollen aber keine Geste, sondern wir wollen 25 Jahre Frieden für Europa! (1936-3-22、プレスラウ、Jahrhunderthalle).

27) その他、4回のもものが *Osten*「東部」、*Völker*「諸民族」、*Schicksal*「運命」、3回のもものが *Westen*「西部」、*Zukunft*「未来」、*Zerreiβung*「分裂」である。

28) この表で、「F」は「頻度」(Frequenz)、「F pro 1,000 W」は「1,000語当たりの頻度」を表す。以下同様。

表 6：レンマ *Frieden* の使用頻度の推移

			F	F pro 1,000 W
Phase 2	2a	1933 Feb - Dez	55	0.86
		1934	21	0.52
		1935	56	1.10
		1936	99	1.47
		1937	39	0.37
		1938	69	0.80
		1939 Jan - Aug	45	0.89
	2b	1939 Sep - Dez	39	1.21
		1940	41	0.69
		1941	25	0.49
		1942	23	0.50
		1943	5	0.43
		1944	15	0.78
		1945	1	0.49

この表でわかるのは、ヒトラーが 1935 年と 1936 年に「平和」を特に多く口にしていることである。1935 年と言えば 1 月にザール地域のドイツへの返還をめぐる住民投票があり、1936 年には 3 月にラインラント進駐をめぐる国民投票が行われている。このことを考えると、特にこれらの投票に際して「平和」プロパガンダの必要性があったものと思われる。またとりわけ 1936 年 8 月のベルリン・オリンピックの開催が、「平和」を語るヒトラーの姿を必要としたのであろう。あと、開戦直後の 1939 年 9 月から 12 月までの間に、「平和」が同様に頻繁に語られたのは、ラジオでの開戦演説（1939-9-1）である。ここでは、「われわれは反撃を余儀なくされた」とするスタンスからしても、開戦の理由を「平和」の維持と関連づける必要があったものと思われる。

第 4 位の *Vorsehung* 「摂理」という語は、ヒトラーが自分の行ってきたこと、これから行うことが、人間の業を超えた力によって宿命的に決定づけられていることを聴衆に印象づける効果がある。Bucher (2005: 78f.) によれば、権力掌握までは「高次の偶然」という意味でしかなかったこの語を、ヒトラーは権力掌握後に「人の業を超えたもの」という意味に変えて過剰にまで用いた。この語を出すことによって、異論を挟む余地のない自己正当化が可能となった。*Die Vorsehung hat das letzte Wort gesprochen und mir den Erfolg*. 「摂理が最後のことばを語り、私に成功を語った」（1939-11-23、ベルリン、軍司令官たちを前にして）のように、*Vorsehung* を主語に置いて、「摂理が～させる」、つまりは「摂理によって～になる」

という表現が多い。第2期前半よりも開戦後（第2期後半）のほうが多く出現している（LLR: 16.13, $p < 0.0001$ ）。戦いに敗れた場合も、それは摂理による試練であるという論理で、摂理をいつでも引き合いに出すことができたのである。

Aufgabe 「課題」、*Umstand* 「状況」のように解決すべき事柄に関わる名詞も、第2期に典型的な名詞となっている。*Ausmaß* 「規模」は、物事の価値を質ではなくその量によって評価する考え方の現れと解釈できよう。この名詞の直前に現れる語としては、*hoch* 「高程度の」（F: 10, TS: 3.13）²⁹⁾、*groß* 「大きな」（F: 10, TS: 3.05）、*ungeheuer* 「途方もない」（F: 5, TS: 2.22）が強い結びつきをもっている。

3.4 第1期内における特徴の変遷

次に、第1期前半（1920年8月～1930年3月）と第1期後半（1930年5月～1933年1月）とを比較して、第1期における名詞の特徴語の推移を跡づけてみよう。それぞれの時期の特徴語は、次の表7と図3の通りである。

表7：名詞の特徴語（第1期前半 [1a] vs 第1期後半 [1b]）

Phase 1a					Phase 1b				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF
Jude	218.86	393	37	7.13	1 Nation	276.12	479	818	2.54
Stresemann	196.11	235	6	26.28	2 Regierung	221.80	137	368	4.00
Grund	150.15	544	120	3.04	3 Papen	204.37	0	112	*
Frankreich	142.34	280	31	6.06	4 Führung	192.33	39	200	7.64
Republik	141.94	240	20	8.05	5 Notverordnung	145.98	0	80	*
München	111.28	147	6	16.44	6 Bauer	139.58	53	185	5.20
Staat	101.03	1017	382	1.79	7 Gegner	133.68	163	320	2.93
Leute	89.63	234	38	4.13	8 Verfassung	132.67	13	111	12.72
England	88.11	229	38	4.15	9 Kraft	123.95	661	796	1.79
Boden	83.10	492	148	2.23	10 Ende	93.37	229	346	2.25
Italien	80.68	123	8	10.32	11 Leistung	91.75	55	150	4.06
Kind	78.06	229	42	3.66	12 Treue	85.49	11	77	10.43
Volkspartei	71.02	188	31	4.07	13 Jahr	84.33	1393	1331	1.42
Fremdenverkehr	66.75	65	0	*	14 Beruf	84.22	37	119	4.79
Militarismus	65.20	72	1	48.32	15 Begriff	78.19	196	294	2.24
Marxismus	59.96	290	78	2.49	16 Plattform	77.84	12	74	9.19
Südtirol	58.53	254	63	2.71	17 Organisation	76.64	209	305	2.17
Fremde	57.29	80	4	13.42	18 Zukunft	73.33	309	396	1.91
Majorität	57.02	187	38	3.30	19 Titel	71.07	5	55	16.39
Kunst	53.87	144	24	4.03	20 Kabinett	67.78	5	53	15.80

29) 「TS」は「Tスコア」を表す。以下同様。

第 1 期後半においては、*Nation*「国民」（特徴語第 1 位）と *Bauer*「農民」（特徴語第 6 位）のことに第 1 期前半のときよりも多く触れ、*Zukunft*「未来」を約束した。

この第 1 期後半には、ヒトラーはナチ運動が何を *Plattform*「基盤、出発点」としているのかを選挙戦で繰り返し説明している。第 1 期後半にこの語の直前に現れた語を調べてみると、*neu*「新しい」（16 回、TS: 3.96）、*dritt*「第 3 の」（7 回、TS: 2.64）、*dieser*（7 回、TS: 2.32）が多い。ヒトラーの主張する「第 3 の」「新しい」基盤³¹⁾とは、従来の社会主義と国民主義とを統合して、労働者たちを民族共同体に統合する立場のことである（Bucher 2005: 82 を参照）。

3.5 第 1 期から第 2 期への移行期における特徴の変遷

第 1 期後半から第 2 期前半に推移する中で、名詞の特徴語はどのように変わっていたのであろうか。表 8 と図 4 が、その二つの時期を比較したものである。

表 8：名詞の特徴語（第 1 期後半 [1b] vs 第 2 期前半 [2a]）

Phase 1b					Phase 2a				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF
Kraft	265.08	796	434	2.57	1 Frieden	191.56	41	356	6.20
Mensch	263.40	1290	900	2.01	2 Kunst	168.47	24	272	8.09
Partei	255.50	793	441	2.52	3 Frau	126.85	23	222	6.89
System	240.49	222	29	10.73	4 Problem	126.63	49	301	4.38
Begriff	217.03	294	78	5.28	5 Land	125.42	109	452	2.96
Bewegung	208.90	848	544	2.18	6 Reich	107.09	265	751	2.02
Papen	178.24	112	2	78.47	7 Europa	99.06	35	119	4.61
Nationalismus	163.27	128	10	17.94	8 Wehrmacht	98.11	3	112	26.64
Kampf	145.34	697	482	2.03	9 Umstand	96.06	7	129	13.15
Notverordnung	140.16	80	0	1	10 Tonne	90.86	1	93	66.37
Stand	125.40	206	69	4.18	11 Aufgabe	89.47	159	501	2.25
Gegner	123.06	320	159	2.82	12 Element	84.35	20	163	5.82
Schicksal	122.31	367	200	2.57	13 Italien	78.91	8	115	10.26
Bauer	112.79	252	112	3.15	14 Spanien	78.71	2	87	31.04
Gesamtheit	109.17	160	47	4.77	15 Künstler	77.26	5	101	14.42
Plattform	97.75	74	5	20.74	16 Gemeinschaft	75.33	64	268	2.99
Million	95.22	816	691	1.65	17 Roosevelt	72.18	0	67	1
Sozialismus	93.48	132	37	5.00	18 Staatsführung	71.30	1	75	53.52
Verfassung	89.34	111	26	5.98	19 Nürnberg	69.80	1	73	52.10
Beruf	86.97	119	32	5.21	20 Bau	68.90	4	88	15.70

31) Wollte man die Begriffe neu definieren, dann konnte das nur von einer **dritten Plattform** aus geschehen. Diese neue Definition konnte nur von Frontsoldaten vorgenommen werden, die nur für das deutsche Volk gekämpft hatten und nicht für einzelne Stände und Klassen und Gruppen. Wir sind zu folgender Feststellung gekommen: [...] Wenn aber der Begriff Sozialismus etwas anderes heißt, wenn er dahin zu verstellen ist, das der Mensch den ganzen Nutzen seines eigenen Ichs unterordnet dem Nutzen der Allgemeinheit und der Gesamtheit, dann wird die Allgemeinheit und die Gesamtheit des deutschen Volkes den Nutzen haben und gesunden. Dann aber ist dieser Sozialist in Wahrheit auch Nationalist. (1930-11-23、カイザースラウテルン、ガウ大管区党大会) Auf dieser **neuen Plattform** findet Deutschland sich wieder zusammen, und Stück für Stück mit dem Zusammenfügen des in den alten Wirrnissen zerfallenen Reiches nimmt automatisch und dauernd die Kraft nach außen wieder zu. (1932-1-26、デュッセルドルフ、Industrie-Club を前にして)。

表 9：名詞の特徴語（第 2 期前半 [2a] vs 第 2 期後半 [2b]）

Phase 2a					Phase 2b				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF
Volk	143.82	4094	1379	1.44	1 Krieg	653.74	294	739	5.19
Kunst	142.29	272	12	10.98	2 England	305.48	138	346	5.18
Nation	103.62	927	220	2.04	3 Front	235.41	40	185	9.55
Werk	73.42	249	30	4.02	4 Kampf	209.61	482	573	2.45
Künstler	70.77	101	1	48.91	5 Churchill	190.90	16	125	16.13
Jugend	66.87	175	15	5.65	6 Soldat	189.95	203	329	3.35
Ausdruck	57.54	151	13	5.62	7 Engländer	146.72	22	111	10.42
Bekenntnis	53.78	111	6	8.96	8 General	135.24	30	116	7.98
Idee	50.82	153	16	4.63	9 Gegner	121.77	159	236	3.07
Bewegung	48.11	544	142	1.86	10 Weltkrieg	117.22	55	135	5.07
Arbeit	46.81	540	142	1.84	11 Luftwaffe	115.68	17	87	10.57
Nürnberg	43.69	73	2	17.68	12 Westen	113.39	28	101	7.45
Aufgabe	38.87	501	137	1.77	13 Osten	113.10	20	90	9.29
Ehre	38.64	190	32	2.88	14 Feldzug	95.57	3	52	35.79
Partei	37.31	441	117	1.83	15 Verbündete	89.35	13	67	10.64
Verständnis	36.60	108	11	4.75	16 Norwegen	86.65	4	50	25.81
Ausstellung	36.40	56	1	27.12	17 Europa	81.78	226	252	2.30
Auffassung	35.71	223	44	2.45	18 Operation	81.54	2	43	44.40
Reichsparteitag	35.54	45	0	-	19 Winter	79.97	11	59	11.08
Geschlecht	33.81	71	4	8.60	20 Polen	78.54	93	144	3.20

図 5：名詞の特徴語のタグクラウド（第 2 期前半 [2a] vs 第 2 期後半 [2b]）



これを見てわかるのは、開戦後となる第 2 期後半では、名詞の特徴語すべてが戦争関連の即物的な名詞であることである：Krieg「戦争」、Front「前線」、Kampf「戦い」、Soldat「兵士」、General「司令官」、Gegner「敵」、Weltkrieg「世界戦争」、Luftwaffe「空軍」、Westen「西部」、Osten「東部」、Feldzug「進軍」、Verbündete「連合軍」、Operation「作戦」、Winter「冬」、Heimat「故国」、England「イギリス」、Churchill「チャーチル」、Engländer「イギリス人」、Norwegen「ノルウェー」、Europa「ヨーロッパ」、Polen「ポーランド」。一方、第 2 期前半、つまり戦争が開始されるまでの時期においては、Volk「民族」、Nation「国民」、Partei「党」、Reichsparteitag「帝国党大会」という国家運営に関わる名詞と並んで、Kunst「芸術」、Künstler「芸術家」、Ausstellung「展覧会」という芸術（文化）に関わる名詞と、Werk「偉業」、Ehre「名誉」、Wille「意志」というポジティブな意味の抽象名詞が特徴語と

なっている。また、大きな失業問題を解決することが課題であったのに相応して、*Arbeit*「労働」も特徴語に入っている。この最後の 3 つの名詞は、第 2 期前半の特徴語である *Nürnberg*「ニュルンベルク」での *Reichsarteitag*「帝国党大会」のモットーにもなっている。すなわち、1934 年は「意志の党大会」、1936 年は「名誉の党大会」、1937 年は「労働の党大会」と呼ばれた。

Ehre と *Wille* について、それぞれ第 2 期前半における共起する名詞と形容詞を調べてみると、表 10a と表 10b のとおりである（その名詞の前後 3 語ずつの範囲に共起するもの）。

表 10a : *Ehre* との共起関係 (3L-3R)³³⁾

Lemma	T-Score	Frequenz (3L)	Frequenz (3R)
Freiheit	4.67	7	15
Volk	4.30	9	13
national	3.60	12	1
Nation	3.35	3	9
deutsch	2.95	8	4
Gleichberechtigung	2.82	3	5
Deutschland	2.69	6	3
Wiederherstellung	2.44	6	0
groß	2.40	5	2
Recht	2.38	1	5

表 10b : *Wille* との共起関係 (3L-3R)

Lemma	T-Score	Frequenz (3L)	Frequenz (3R)
Volk	3.72	3	16
Nation	3.45	2	11
unerschütterlich	3.31	10	1
frei	3.30	11	0
Entschluß	3.28	3	8
politisch	3.04	9	1
eigen	3.03	7	3
fest	2.98	8	1
einzel	2.89	3	6
deutsch	2.88	3	10
Vorsehung	2.79	2	6

Ehre と共起する名詞は *Freiheit*「自由」、*Volk*「民族」、*Nation*「国民」、そして *Gleichberechtigung*「同権」、*Deutschland*「ドイツ」、*Wiederherstellung*「原状回復」、*Recht*「権利」であり、形容詞は *national*「国民の」、*deutsch*「ドイツの」、*groß*「偉大な」である。つまり、ヒトラーがこの時期に語った「名誉」とは、1936 年 3 月のラインラント進駐に象徴されるようなドイツ国民・ドイツ民族の「自由」、「同権」、「権利」の「回復」をめぐるものであった。*Wille* と共起する名詞は、*Volk*、*Nation*、*Entschluß*「決断」、*Vorsehung*「摂理」で、形容詞は *unerschütterlich*「不動の」、*frei*「自由な」、*politisch*「政治的な」、*eigen*「自らの」、*fest*「確固たる」、*einzel*「個々の」、*deutsch* である。これでわかるのは、ドイツ国民・ドイツ民族の「意志」がヒトラーによって「不動の」、「確固たる」、「摂理」によるものと表象されていることである。

33) 「3L-3R」とは、当該の語の左にある 3 語と右にある 3 語について算出したという意味である。

第2期前半の特徴語として残る *Ausdruck*「表現」、*Bekanntnis*「公言」、*Verständnis*「理解」には、興味深い共通点がある。それはこれらが動詞から派生した名詞であり、これらの名詞の使用がいわゆる「名詞文体」³⁴⁾につながり、その言語に形式性ないし書きことば性を与えるという点である。*Ausdruck*を例にすると、この名詞の前後それぞれ4語内に共起する動詞は、*bringen*「もたらす」(4L-4R: 1-26、TS: 5.17)³⁵⁾、*finden*「見出す」(3-21、TS: 4.87)、*verleihen*「付与する」(4L-4R: 0-19、TS: 4.36)、*geben*「与える」(4L-4R: 0-18、TS: 4.16)である。つまり、*Ausdruck*は、*et⁴. zum Ausdruck bringen*³⁶⁾「～を表現へもたらす (=～を表現する)」、*Ausdruck finden*³⁷⁾「表現を見出す (=表現される)」、*et³. Ausdruck verleihen*³⁸⁾「～に表現を付与する (=～を表現する)」、*et³. Ausdruck geben*³⁹⁾「～に表現を与える」 (=～を表現する) という形式的な定型表現の形で、全用例 151 例のうち半数以上に当たる 88 例 (27+24+19+18) において、この形で使用されている。同様に、名詞 *Bekanntnis* には、*Bekanntnis ablegen*⁴⁰⁾「公言を行う」(4L-4R: 2-16、TS: 4.24) という定型的

34) 「名詞文体」(Nominalstil) とは、意味内容の中核が動詞にではなく名詞にある文体のことを指す。日本語を例にしてわかりやすく言うならば、「論じる」の代わりに「議論に付す」、「作る」の代わりに「作成を行う」のように述べたり、「列車が恐ろしく遅れたこと」の代わりに「列車の恐ろしい遅延」のように述べる傾向性のことである。

35) 以下、紙面の都合から、T スコアを示す場合は一覧表形式ではなく、このように示すこととする。かつこ内の「4L-4R: 1-26」というのは、前(左)側に1例、後(右)側に26例、用例があるという意味で、TSはTスコアの略記である。

36) *Das Hoheitszeichen des neuen Reiches soll sinnbildlich zum Ausdruck bringen, daß er nicht nur der Vergangenheit, sondern auch der Gegenwart und der deutschen Zukunft geweiht ist.* (1933-10-22、ケールハイム、Befreiungshalle) *Meine persönliche Auffassung zu diesem Problem ist in dem Briefe an den Herrn Reichsinnenminister eindeutig und klar zum Ausdruck gebracht.* (1933-8-27a、タネンブルク、タネンブルク記念碑)

37) *In diesen beiden Bauten, von denen sie den einen bereits sich langsam emporheben sehen, wird die Synthese der nationalsozialistischen Erziehung ihren klaren Ausdruck finden.* (1938-9-10、ニュルンベルク、党大会、ヒトラーユーゲントを前にして)

38) *Damit aber wird sie nicht nur das äusere Lebens- und Machtbild des deutschen Volkes verändern, sondern auch seiner kulturellen Gestaltung einen neuen Ausdruck verleihen.* (1934-9-5、ニュルンベルク、党大会、文化集会)

39) *Sie haben, Herr Nuntius, der Überzeugung Ausdruck gegeben, daß ich Sie in ihrer Aufgabe, die guten Beziehungen zwischen ihren Ländern und Deutschland aufrechtzuerhalten und zu festigen, unterstützen werde.* (1934-9-12、ベルリン、外交団を前にして)

40) *Ich habe mich entschlossen, zur Dokumentierung dieser Behauptung den Herrn Reichspräsidenten zu bitten, den Deutschen Reichstag aufzulösen und in einer Neuwahl, verbunden mit einer Volksabstimmung, dem deutschen Volke die Möglichkeit zu bieten, ein geschichtliches Bekanntnis abzulegen.* (1933-10-4、ライプツィヒ、ドイツ法学会大会)。

表現があり、*Verständnis* には *Verständnis haben*⁴¹⁾「理解を持っている」(4L-4R: 17-5, TS: 4.42)、*Verständnis aufbringen*⁴²⁾「理解を示す」(4L-4R: 0-10, TS: 3.16)、*Verständnis besitzen*⁴³⁾「理解を持っている」(4L-4R: 0-7, TS: 2.62) という定型的表現がある。さらには、*Aufgabe*「課題」という特徴語についても同様の説明が可能である。この名詞は、*jm eine Aufgabe stellen*⁴⁴⁾「～に課題を課す」のような定型的表現で多用されている(4L-4R: 25-47, TS: 8.45)。比較的長い付加語を名詞に前置すること(いわゆる「冠飾句」)は、一般に書きことば的とされるが、この定型句がそのような付加語としても用いられていることは、(少なくともこの時期の)ヒトラーの演説文の書きことば性の高さを示唆している⁴⁵⁾：*Allein, indem wir dieses wissen und glauben, ermessen wir doch die Größe der uns vielleicht einmal gestellten Aufgabe* (1936-9-14c、ニュルンベルク、党大会、国防軍を前にして)；*Er wird dabei ebenso sehr eine Summe kulturgeschichtlicher Eindrücke als nun einmal gegeben in Rechnung stellen und damit berücksichtigen, wie umgekehrt die durch die Gegenwart gestellte Aufgabe erfüllen* (1935-9-11b、ニュルンベルク、党大会、文化集会)。

このような形式性・書きことば性は、第2期前半においてヒトラーがさまざまな国家的行事において演説をする機会があり、そこで荘厳な印象を与えるために求めたものと言えよう。

41) *Ich habe tiefes Verständnis dafür, daß die Interessenten an dieser Rechtsordnung im Völlerbund ein angenehmes moralisches Forum sehen für die Aufrechterhaltung [...]*. (1938-2-20、ベルリン、帝国議会)

42) *Eine einzige Großmacht sehen wir in Europa und einen Mann an ihrer Spitze, die **Verständnis besitzen** für die Notlage unseres Volkes.* (1938-9-26、ベルリン、Sportpalast)

43) *Es wird sehr viele Staaten und Völker geben, die für eine so zusätzliche Belehrung auf einem so wichtigen Gebiet großes **Verständnis besitzen** werden!* (1939-1-30、ベルリン、帝国議会)

44) *Und diese einige Nation, wir brauchen sie; Denn wann ist jemals einer Führung eine schwerere **Aufgabe gestellt** worden als unserer deutschen Führung?* (1935-5-1、ベルリン、国民労働の日)

45) 例えば、前述の *Ausdruck* を用いた定型表現にも、冠飾句として使用された例が見いだせる。*Erstens ist die Forderung nach einer tatsächlich zum Ausdruck kommenden Gleichberechtigung [...]* (1933-5-17、ベルリン、帝国議会)；*Das Entscheidende aber bleibt stets, daß er dem Gesamtzweck der gestellten Aufgabe eine entsprechende und ihn klar zum Ausdruck bringende Form gibt.* (1935-9-11b、ニュルンベルク、党大会、文化集会)

4. 特徴的な形容詞の変遷

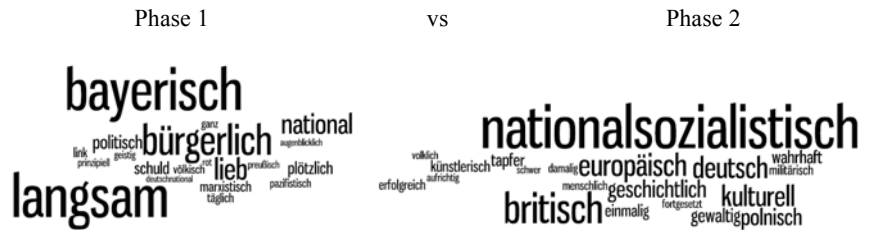
4.1 第 1 期と第 2 期における特徴

次に、形容詞に関して特徴度の変遷を見てみよう。第 1 期と第 2 期とを比較した結果が、次の表 11 と図 6 である。

表 11：形容詞の特徴語（第 1 期 vs 第 2 期）

Phase 1					Phase 2				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
langsam	234.27	552	117	3.94	1 nationalsozialistisch	421.57	304	896	3.53
bayerisch	227.21	260	14	15.51	2 britisch	298.22	14	248	21.21
bürgerlich	160.68	487	130	3.13	3 europäisch	219.48	53	285	6.44
lieb	117.33	478	157	2.54	4 deutsch	209.82	4647	5198	1.34
national	109.10	838	372	1.88	5 kulturell	204.40	40	246	7.36
politisch	73.05	1314	746	1.47	6 geschichtlich	168.05	67	268	4.79
plötzlich	67.03	318	114	2.33	7 polnisch	163.41	10	143	17.12
schuld	66.28	83	6	11.55	8 gewaltig	136.63	159	379	2.88
marxistisch	55.75	177	49	3.02	9 wahrhaft	126.16	22	146	7.93
völkisch	55.30	138	31	3.72	10 tapfer	123.00	14	125	10.68
täglich	49.45	154	42	3.06	11 einmalig	118.84	3	90	35.92
link	49.03	76	9	7.05	12 künstlerisch	109.51	10	105	12.57
ganz	45.98	1614	1031	1.31	13 erfolgreich	97.10	12	101	10.08
pazifistisch	45.68	53	3	14.75	14 militärisch	95.77	70	205	3.51
prinzipiell	41.91	41	1	34.24	15 völklich	94.74	1	66	79.02
geistig	41.34	370	174	1.78	16 menschlich	88.14	136	290	2.55
rot	39.78	116	30	3.23	17 damals	85.63	65	187	3.44
preußisch	39.52	69	10	5.76	18 fortgesetzt	81.39	3	65	25.94
augenblicklich	36.68	118	33	2.99	19 aufrichtig	76.53	14	90	7.70
deutschnational	35.64	40	2	16.36	20 schwer	75.63	365	545	1.79

図 6：形容詞の特徴語（第 1 期 vs 第 2 期）



大きく第 1 期と第 2 期とを比較してみると、第 1 期にヒトラーが語った *bayerisch* 「バイエルンの」という狭い地理的範囲から、第 2 期には *deutsch* 「ドイツの」に、さらには *europäisch* 「ヨーロッパの」へと拡大したことがわかる。また、ヒトラーが第 1 期に多く口にした *national* 「国民の」と *deutschnational* 「ドイツ国民の」という *national* に関わる概念が、第 2 期には *nationalsozialistisch* 「国民社会主義の」に変化したと言うことができる。第 1 期に典型的な形容詞としては、敵陣営を指す形容詞（*maxistisch* 「マルクス主義的」、*rot* 「赤い」、*preußisch* 「プロシアの」、*bürgerlich* 「ブルジョア的な」、*schuld* 「罪のある」）と自陣営を形容する形容詞

(*national*、*deutschnational*、*pazifistisch* 「平和主義の」、*völkisch* 「民族主義的な、民族の」) とが区別できる。

völkisch は第 2 期では激減して、その代わりに *volklich* 「民族の」 が用いられたことが表からわかる。*völkisch* という語を、ヒトラーは、『わが闘争 (上)』(1925)の中で理論上明確に「拒絶」している。それは、この「規定されにくい、そしてさまざまな解釈可能な概念を政治闘争の中に持ちこむ」(『わが闘争』(上)、514 頁) ことで、闘争のための集団が空中分解する可能性が高くなるからである。すると、第 1 期には *völkisch* が 138 回用いられ、第 2 期にも 31 回用いられていることは矛盾するように見える。⁴⁶⁾ しかし、ヒトラーが演説の中でこの形容詞の被修飾語として用いている名詞をよく見てみると、*völkisch* が「民族主義的 (国粹的)」という意味合いで用いられたのは 1925 年から 1928 年にかけてに限られ、その後はイデオロギー性の低い「民族の」という意味で用いられる傾向が高くなっていったという解釈が可能である。すなわち、イデオロギー性の高い名詞と結ばれたケースは、次の通りである (括弧内の数字は全回数、年は出現した年)。

<i>völkische Bewegung</i>	「民族主義的運動」(11 回、1926/27/28/31 ⁴⁷⁾)
<i>völkische Idee</i>	「民族主義的理念」(5 回、1925/26/28)
<i>völkische Weltanschauung</i>	「民族主義的世界観」(4 回、1925)

それ以降ヒトラーは、*völkisch* という形容詞を、「生活」、「土地」のような具象性のある名詞について使用している。

<i>völkisches Leben</i>	「民族の生活」(7 回、1928/31/32)、(5 回、1933/34/35)
-------------------------	--

46) *völkisch* は年を追うごとに避けられていったのはたしかで、第 2 期後半には 2 回しか用いられなかった。それは、1939-10-10 の冬季救済事業での演説および 1944-1-30 のヒトラー最後の演説においてである。*Der völkisch und politisch untermauerte Einheitsstaat hatte die Aufgabe, sofort jene Wehrmacht zu schaffen, die in ihrer geistigen Einstellung, moralischen Haltung, ihrer zahlenmäßigen Stärke und in ihrer materiellen Rüstung als Instrument den Aufgaben der Selbstbehauptung genügen konnte.* (1944-1-30、ベルリン、ラジオでの演説) この最後の例では、*politisch* という語と並列させているので、同じ-*isch* で終わる *völkisch* のほうが語呂がよいために使用された可能性がある。

47) 1931 年 (5 月 2 日) の例は、他人のことばの引用文のなかで用いられており、実際にヒトラー自身が用いたわけではない。

völkisches Erdreich 「民族の土地」(5回、1932)

このように脱イデオロギー化した *völkisch* の意味合いを、第2期では *volklich* という形容詞が担い、これが第2期の特徴語のひとつとなったと考えられる。*volklich* は、第2期で *Leben* 「生活」と6回、*Gemeinschaft* 「共同体」と4回使われている。

第1期に最も典型的な形容詞は *langsam* である。*langsam* は、552例中510回が副詞としての用法(「そろそろ」、「ゆっくりと」)で、頻度としてはとくに1927/28年が突出している(1927-4-13: 10回、1927-7-30: 19回、1928-3-3: 20回、1928-12-3: 40回)。これは、1928年5月20日の総選挙でナチ党が凋落したことと関連していると思われる。このなかでも1928年12月3日の演説では、*langsam sehen wir* 「次第に我々はわかってくる」が、文頭で何度も平行的に繰り返されている。

Langsam sehen wir, wie die Presse in die Hände d[es] anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie das Theater in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie die Literat[ur] in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie die Kunst in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie der Handel in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie die Wirtsch[aft] in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie das politische Parteileben in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie das Rechtsw[esen] in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie die Justiz in die Hände des anderen Volks übergeht, langsam sehen wir, wie d[as] Artzew[esen] in die Hände des anderen Volks übergeht. Langsam sehen wir, wie unser ganzes öffentliches Leben und alle Kräfte, die unser Leben gestalten, in die Hände des anderen Volkes hinübergeleitet werden, von diesem schließlich gestellt werden, und wie langsam diese Erscheinungen unserem Volksempfinden entfremdet werden, wie die Literatur, die Kunst, das Theater, die Justiz, das Rechtswesen entfremdet werden. Wir sehen, wie langsam Tausende uns nicht mehr verstehen können und wie Tausende einer fremden öffentlichen Meinung gegenüberstehen. (1928-12-3、

ニュルンベルク、Lehrerheim)

第1期に特徴的な形容詞（第11位）*täglich*「日々の」の場合は、第1期に154例中103例が*Brot*「パン」と結びついていて、そのTスコアは10,14（1R: 103）である。*Brot*に次いで共起関係が強固なのは*Leben*「生活」（1R: 16, TS: 3.94）である。ヒトラーが、日々の糧（パン）、日々の生活を問題にして訴えていたことがわかる。

第2期に特徴的な形容詞としては、一方で文化的な形容詞（*kulturell*「文化的な」、*künstlerisch*「芸術的な」）が、他方で外交・戦争に関わる形容詞（*britisch*「イギリスの」、*polnisch*「ポーランドの」、*militärisch*「軍事の」）がある。また、*gewaltig*「途方もない」、*einmalig*「一回限りの、比類のない」、*erfolgreich*「成功した」のように業績・成果を評価する形容詞も目立つ。*gewaltig*の直後に来る語を見ると、*Aufgabe*「課題」（1R: 14, TS: 3.65）、*Organisation*「組織」（1R: 12, TS: 3.43）、*Werk*「業」（1R: 11, T: 3.27）、*Arbeit*「労働」（1R: 9, T: 2.87）、*Kampf*「闘争」（1R: 8, TS: 2.62）、*Erfolg*「成功」（1R: 5, TS: 2.17）、*Leistung*「業績」（1R: 5, TS: 2.15）であり、この*gewaltig*が「課題」と「成果」に関わって使用されていることがわかる。同様に、*einmalig*も、最も結びつきの強固な名詞は*Leistung*（1R: 5, TS: 2.22）である。また、*aufrichtig*「誠実な」、*tapfer*「勇敢な」、*menschlich*「人間的な」という人間の評価に関わる形容詞も、第2期に典型的となっている。

4.2 第1期内における特徴の変遷

形容詞の特徴度を第1期前半と第1期後半とで比較した結果が、次の表12と図7である。

表 12：形容詞の特徴語（第 1 期前半 [1a] vs 第 1 期後半 [1b]）

Phase 1a					Phase 1b				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF
bayerisch	137.82	239	21	7.64	1 deutsch	83.08	2474	2173	1.31
Münch[e]ner	126.40	140	2	46.97	2 inner	63.65	288	362	1.87
national	121.72	652	186	2.35	3 politisch	62.81	644	670	1.55
lieb	91.94	384	94	2.74	4 wirtschaftlich	50.09	217	276	1.90
gleich	75.64	539	177	2.04	5 göttlich	46.94	2	33	24.59
vollkommen	67.26	177	29	4.10	6 neu	42.36	734	696	1.41
international	54.31	344	107	2.16	7 denkbar	40.56	19	59	4.63
jüdisch	51.86	101	11	6.16	8 gänzlich	38.81	10	44	6.56
sogenannt	35.23	180	50	2.42	9 belanglos	36.41	15	50	4.97
radikal	34.92	34	0	4	10 geltend	36.08	3	29	14.40
jährlich	34.87	63	6	7.05	11 lang	35.74	156	198	1.89
täglich	32.28	125	29	2.89	12 hart	35.48	39	80	3.06
militärisch	31.96	63	7	6.04	13 geistig	34.91	165	205	1.85
link	29.93	67	9	5.00	14 entscheidend	33.96	23	59	3.82
sozial	28.98	179	55	2.18	15 einheitlich	32.23	34	71	3.11
modern	28.64	40	2	13.42	16 weise	31.16	21	54	3.83
englisch	28.46	77	13	3.97	17 verfassungsmäßig	31.02	0	17	4
nah	26.60	150	44	2.29	18 untreu	31.02	0	17	4
pazifistisch	25.29	48	5	6.44	19 geschichtlich	27.19	19	48	3.76
damalig	24.64	57	8	4.78	20 mürrisch	26.45	3	23	11.42

図 7：形容詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期前半 [1a] vs 第 1 期後半 [1b]）



この比較でわかるのは、4.1 で第 1 期の特徴語として捉えた *bayerisch* と *national* が実は第 1 期の前半期の特徴語であり、第 1 期後半にはすでにそれらに代わって *deutsch* が特徴語となっていることである。（バイエルンの州都の形容詞形 *Münch[e]ner* 「ミュンヘンの」も第 1 期前半の特徴語となっている。） *täglich* 「日々の」も、実は第 1 期前半に特徴的であったわけである。

第 1 期前半の特徴語である *international* 「国際的な」は、次に来る名詞に関して見てみると、まず「資本」、「金融」に関わり、次に敵対視する「ボルシェビズム」、社会主義に関わることがわかる：*Kapital* 「資本」（1R: 27、TS: 5.18）、*Solidarität* 「連帯」（1R: 18、T: 4.24）、*Hochfinanz* 「金融界首脳」（1R: 16、T: 4）、*Jude* 「ユダヤ人」（1R: 11、TS: 3.26）、*Proletariat* 「プロレタリアート」（1R: 9、TS: 2.98）、*Finanz* 「金融」（1R: 8、TS: 2.83）、*Finanzkapital* 「金融資本」（1R: 8、TS: 2.64）、*Marxismus* 「マルクス主義」（1R: 5、TS: 2.15）。「金融」との関連で「ユダヤ人」も *international*

との結びつきが強固となっている。*Jude* の形容詞形である *jüdisch* 「ユダヤ人の」も、第1期前半の特徴語となっている。同じく第1期前半の特徴語である *sogenannt* 「いわゆる」は、そのあと3語内に来る語としては、*national* (3R: 13, TS: 3.54)、*Partei* 「党」(3R: 11, T: 3.23)、*bürgerlich* 「ブルジョアの」(3R: 8, T: 2.79)、*Majorität* 「多数」(3R: 6, T: 2.42)、*deutsch* (3R: 7, T: 2.32) がある。例えば、*Das ganze Streben der sogenannten nationalen Parteien von damals* (1928-2-24、ミュンヘン、Hofbräuhaus)、*aus sogenanntem bürgerlichen Stand* (1929-2-24、ミュンヘン、Hofbräuhaus)、*in diesem sogenannten deutschen Bürgertum* (1927-8-6、ハイデルベルク、Stadthalle)、*die Hände einer willenlosen und verantwortungslosen sogenannten Majorität* (1922-7-22、ミュンヘン、Zirkus Krone) の例のように、ヒトラーがこれらの概念の正当性に対して懐疑的であることを表われている。

第1期前半と比較して第1期後半に典型的な形容詞には、*politisch* 「政治的な」と *wirtschaftlich* 「経済的な」がある。1930年9月の帝国議会選挙以降、政権獲得に向けて、政治と経済を全面に出して演説したことになる。*verfassungsmäßig* 「憲法に基づく」が特徴語となっているのは、憲法遵守の姿勢を示そうとしたものである。*inner* 「内的な」という内面に関わる形容詞の直後に来る語は、*Wert* 「価値」(1R: 21, TS: 4.53)、*Kampf* 「闘争」(1R: 18, TS: 4.07)、*Kraft* 「力」(1R: 13, TS: 3.37) であり、またもうひとつの特徴語である *geistig* 「精神的な」と並列されることも多い(1R: 11)。⁴⁸⁾ *göttlich* 「神の」は、ほとんどもっぱら *Ordnung* 「秩序」との結合(1R: 27, TS: 5.20)で使用されている。*neu* 「新しい」と結合する名詞を見てみると、ヒトラーが何を更新したいと訴えたかがわかる：*Reich* 「帝国」(1R: 22, TS: 4.59)、*Deutschland* 「ドイツ」(1R: 26, TS: 4.48)、*Zeit* 「時代」(1R: 20, T: 4.16)、*Plattform* 「基盤」(1R: 16, TS: 3.96)、*Weltanschauung* 「世界観」(1R: 13, TS: 3.55)、*Regierung* 「政府」(1R: 14, TS: 3.54)、*Glaube* 「信仰」(1R: 12, TS: 3.36)、*Idee* 「理念」(1R: 11, TS: 3.19)。また、この第2期後半においては、*gänzlich* 「完全な」と *entscheidend* 「決定的な」という強意語もよく使われている。

48) [...] diese Lage ist ja nicht nur das Ergebnis der äußeren Entwicklung, sondern unserer *inneren geistigen*. (1932-1-26、デュッセルドルフ、Industrie-Club を前にして)

4.3 第 1 期から第 2 期への移行期における特徴の変遷

第 1 期後半から第 2 期前半に移行するなかでの変化を見てみよう。この 2 つの時期における形容詞の特徴語は、次の表 13 と図 8 のとおりである。

表 13：形容詞の特徴語（第 1 期後半 [1b] vs 第 2 期前半 [2a]）

Phase 1b $p < 0.0001$					Phase 2a $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF
langsam	163.40	242	72	4.71	1 nationalsozialistisch	234.77	147	707	3.43
plötzlich	64.24	140	61	3.22	2 kulturell	149.82	15	218	10.37
bürgerlich	60.72	183	100	2.56	3 wahrhaft	105.29	3	119	28.31
vollständig	49.38	75	23	4.57	4 künstlerisch	91.81	3	104	24.74
politisch	51.53	670	630	1.49	5 europäisch	76.10	32	188	4.19
geistig	38.47	205	148	1.94	6 militärisch	75.86	7	108	11.01
preußisch	33.81	37	7	7.41	7 menschlich	68.19	56	238	3.03
mürbe	33.06	23	1	32.23	8 britisch	66.73	0	62	4
weise	29.79	54	20	3.78	9 geschichtlich	66.44	48	216	3.21
göttlich	28.26	33	7	6.61	10 damals	61.94	8	97	8.65
geltend	27.80	29	5	8.13	11 übrig	60.07	52	216	2.96
absolut	26.79	76	40	2.66	12 liegend	57.23	1	61	43.53
deutschnational	23.79	20	2	14.01	13 bolschewistisch	55.52	15	113	5.38
schuld	20.77	24	5	6.73	14 jüdisch	53.54	11	98	6.36
einheitlich	20.51	71	42	2.37	15 modern	51.48	2	61	21.77
belanglos	20.20	50	24	2.92	16 gewaltig	50.81	81	265	2.33
entsetzlich	19.69	34	12	3.97	17 tief	46.81	68	230	2.41
logisch	18.55	33	12	3.85	18 aufrichtig	46.58	8	80	7.14
grün	18.15	17	2	11.91	19 herzlich	44.17	0	41	4
verfassungsmäßig	18.15	17	2	11.91	20 genau	41.23	136	355	1.86

図 8：形容詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期後半 [1b] vs 第 2 期前半 [2a]）



結果は、第 1 期全体と第 2 期全体とを比較した場合の特徴（上の 4.1 を参照）と重なることが多い。しかし、*bolschewistisch* 「ボルシェビキの」、*jüdisch* 「ユダヤ人の」という形容詞が第 1 期後半と比較して第 2 期前半の特徴語になっているということは、ヒトラーがこのふたつの形容詞を政権掌握前の選挙遊説では控え、政権掌握後にはまた明確に言及するようになったことを示している。*Jude* 「ユダヤ人」、*Marxismus* 「マルクス主義」という名詞が第 1 期後半にはあまり使用されなかったこと（第 1 期後半と比較してこの 2 つの名詞が第 1 期前半の特徴語になっていたこと：3.4 を参照）を思い出すと、第 1 期後半すなわち政権掌握前の選挙遊説において、攻撃対象であったはずのユダヤ人とマルクス主義に言及する

ことがきわめて意識的に避けられたという解釈ができる。もうひとつ、*modern*「近代的な」という形容詞も、第1期後半における使用の少なさが目に付く。第1期後半においては、わずか2回の使用である。この形容詞は、すでに見た表12でわかるように第1期後半と比べて第1期前半の特徴語であると同時に、表13でわかるように第1期後半と比べてと比べて第2期前半の特徴語でもある。

4.4 第2期における特徴の変遷

第2期の前半から後半にかけての推移を見てみると、表14と図9のようになる。

表14：形容詞の特徴語（第2期前半 [2a] vs 第2期後半 [2b]）

Phase 2a					Phase 2b				
p < 0.0001					p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF
politisch	112.71	630	116	2.63	1 britisch	186.71	62	186	6.20
künstlerisch	73.08	104	1	50.36	2 polnisch	110.42	35	108	6.37
kulturell	60.52	218	28	3.77	3 englisch	62.82	64	106	3.42
nationalsozialistisch	58.55	707	189	1.81	4 verbündet	55.93	2	31	32.01
inner	54.48	459	106	2.10	5 völlig	49.85	12	44	7.57
neu	50.98	1096	347	1.53	6 feindlich	45.43	13	43	6.83
national	50.30	311	61	2.47	7 ermutigend	44.80	0	20	*
glücklich	36.43	203	37	2.66	8 gleich	42.74	340	281	1.71
allgemein	33.97	259	57	2.20	9 vereinigt	37.63	6	29	9.98
menschlich	31.66	238	52	2.22	10 kapitalistisch	34.83	21	45	4.43
gegenseitig	30.36	113	15	3.65	11 norwegisch	31.36	0	14	*
sichtbar	29.75	70	5	6.78	12 einmalig	30.57	35	55	3.25
tschechisch	28.43	36	0	*	13 amerikanisch	30.29	52	69	2.74
geistig	28.38	148	26	2.76	14 sozial	24.23	84	87	2.14
kollektiv	27.64	35	0	*	15 strategisch	20.62	1	12	24.78
bestimmt	27.27	181	37	2.37	16 treibend	19.75	3	15	10.33
stolz	25.57	180	38	2.29	17 alliiert	19.75	3	15	10.33
groß	25.38	1427	538	1.28	18 damals	19.25	97	90	1.92
scharf	25.18	53	3	8.56	19 militärisch	18.99	108	97	1.85
geschichtlich	23.37	216	52	2.01	20 monatelang	18.92	2	13	13.29

図9：形容詞の特徴語のタグクラウド（第2期前半 [2a] vs 第2期後半 [2b]）



第1期全体と第2期全体とを比較したとき（4.1を参照）に第2期の特徴と見えた *nationalsozialistisch*「国民社会主義的」、*kulturell*「文化的な」、*künstlerisch*「芸

術的な」は実は第2期前半のほうに特徴的な形容詞であり、一方同じく第2期の特徴と見えた *britisch* 「イギリスの」、*polnisch* 「ポーランドの」、*einmalig* 「比類のない」、*damalig* 「当時の」は第2期後半に特徴的な形容詞であったことがわかる。

第2期前半にのみ *kollektiv* 「集団の」という形容詞が用いられているが、これは名詞としては *Zusammenarbeit* 「協力」(1R: 15、TS: 3.87) との結びつきが強い。*stolz* 「誇り高い」と *glücklich* 「幸福な」、また *groß* 「偉大な」の前後4語に共起する語を見ると、共通するものとしては *wir* 「われわれは」、*unser* 「われわれの」、*ich* 「私は」、*Volk* 「民族」、*heute* 「今日」がある。したがって、この3つの形容詞は、政権を掌握したあとの「われわれ」の「今日」の達成感を反映した形容詞と解釈することができる。各数値は次の通りである。*stolz* の場合、*wir* (4L-4R: 42-20、TS: 7.54)、*Volk* (4L-4R: 20-20、TS: 6.08)、*unser* (4L-4R: 19-18、TS: 5.87)、*ich* (4L-4R: 19-15、TS: 5.47)、*heute* (4L-4R: 15-2、TS: 4.02)。*glücklich* の場合、*ich* (4L-4R: 37-22、TS: 7.38)、*Volk* (4L-4R: 16-8、TS: 4.54)、*Deutschland* (4L-4R: 11-3、TS: 3.51)、*heute* (4L-4R: 7-2、TS: 2.84)。*groß* の場合、*wir* (4L-4R: 100-74、TS: 11.6)、*unser* (4L-4R: 72-82、TS: 11.58)、*Volk* (4L-4R: 51-67、TS: 9.74)、*deutsch* (4L-4R: 30-79、TS: 9.42)、*ich* (4L-4R: 40-50、TS: 7.75)。

第2期後半の特徴語としては、*englisch* 「イギリスの」、*norwegisch* 「ノルウェーの」、*amerikansich* 「アメリカの」という戦争に関わる国名や、*verbündet* 「同盟関係にある」、*alliert* 「連合関係にある」、*feindlich* 「敵の」という敵味方を表す形容詞がある。そのほかに、*ermutigend* 「鼓舞する」、*strategisch* 「戦略的な」、*monatelang* 「何ヶ月にもわたる」も戦争に関わる語彙である。

5. 人称代名詞と *man* の特徴

今まで見てきたような、歴史的背景と比較的明確に関連づけることができる語彙の変遷と比べて、気づきにくい言語表現の変遷もある。その最もよい例が、人称代名詞および不定代名詞の *man* の使用法である。第1期と第2期を比較すると、次の表15のようになる。

表 15：人称代名詞(*man* を含む)の特徴語 (第 1 期 vs 第 2 期)

Phase 1 p < 0.0001					Phase 2 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
man	1157.94	5845	2165	2.25	ich	406.89	7724	8829	1.37
du	805.34	1597	277	4.82					
wir	169.74	14526	10263	1.18					

この表でわかるのは、ヒトラーは第 2 期と比較して第 1 期では *man* 「ひと」、*du* 「汝」(表記形: *du, dir, dich*)、*wir* 「われわれ」(表記形: *wir, uns*) を典型的に多く使用したこと、第 2 期ではそれに代わって *ich* 「私」(表記形: *ich, mir, mich*) を特徴的に多く使用したことである。第 1 期に *du* が特徴語となっているのは、権力掌握より前の時期においては、ヒトラーが演説をするときの聴衆が仲間(党員)であることが相対的に多かったことに由来すると考えられる。

第 1 期と第 2 期とで対数尤度比 (LLR) が 1157.94 という、きわめて大きな有意差を示す不定代名詞 *man* は、一般的なひとを表すことが基本である。例として第 1 期の 1927 年の演説の一節を見てみよう：

Man sagt aber, in Rußland rüstet **man** für die Zwecke des Proletariats. **Ich** erinnere **mich** in **meiner** Jugend an eine große Brotbäckerei in Wien, die Anker-Brotwerke und die Hammer-Brotwerke Sie waren Konkurrenz-Unternehmen und gehörten je einem Juden. (1927-1-18、シュライツ、Vereinsgarten)

ここでは、ヒトラーは *man* を用いて、自分とは異なる人物たちの言説を示したあとで、*ich* を用いて自分自身の見解ないし体験を披露している。しかし、*man* には「ひとは」と言いながら、実際には暗に自分自身(1人称)を、さらにはまた相手(2人称)を指すこともある。この意味での曖昧さを含む *man* が、第 1 期において好まれたと言える。同じく第 1 期の特徴語になっている *wir* も、これが聴衆を含むのか、それとも聴衆を含まないのかという点で、曖昧さが残る人称代名詞である。政権獲得後はヒトラーは、このように曖昧さのある「ひとは」と「われわれは」と言うことよりも、「私が」考えることを「私の」こととして明確かつ主体的に表現したことになる。所有冠詞 *dein* 「汝の」が第 1 期の特徴語 (LLR: 127.94, Frequenz Ph1: 387, Ph2: 100) として、所有冠詞 *mein* 「私の」が第 2 期の特徴語 (LLR:

258.11, Frequenz Ph1: 1278, Ph2: 1896) として抽出されるのは、当然ながら今述べた *du* と *ich* の分布に対応している。

man、*du*、*ich*、*wir* に関して、半期ごとの変遷を跡づけると、次の表 16 のようになる。⁴⁹⁾ またさらに、これらの語の頻度を 1922 年から 1945 年まで年ごとに調べると、表 17 のようになる。⁵⁰⁾

表 16：人称代名詞 (*man* を含む) の特徴度の変遷 (半期ごと)

	man		du		ich		wir	
	F	LLR-Differenz	F	LLR-Differenz	F	LLR-Differenz	F	LLR-Differenz
Phase 1a	3973		1068		3307		8244	
Phase 1b	1872	-165.29	529	-33.65	4417	908.07	6282	57.22
Phase 2a	1305	-382.97	230	-243.40	5548	-29.28	7010	-170.68
Phase 2b	860	48.02	47	-34.67	3281	108.77	3253	-4.05

49) *man* の段を例にして表の見方を説明すると、*man* は第 1 期前半 (Phase 1a) で 3973 回出現し、次の第 1 期後半 (Phase 1b) で 1872 回出現している。このふたつを比較すると、第 1 期前半のほうが対数尤度比 165.29 という有意差をもって第 1 期後半よりも特徴的に多く使用されている。逆に言うと、第 1 期前半から第 1 期後半に移行するとともに、*man* は対数尤度比 165.29 という数値分、使用が少なくなっている。LLR-Differenz (対数尤度比の差) という欄に「-165.29」とマイナスで書かれてるのは、第 1 期後半において *man* の使用が直前の半期よりも減少していることを表す。同様に Phase 2a に「-382.97」とあるのは、第 1 期後半とくらべて第 2 期前半には *man* の使用がその数値で表される程度に減少したことを示す。Phase 2b にある「48.02」はマイナスではなくプラスの表示なので、第 2 期後半にその直前の第 2 期前半よりも *man* の使用が増えたことを表す。

50) この表で、「F」は (絶対) 頻度、「F pro 1,000 W」は 1,000 語あたりの頻度である。なお、1921 年と 1945 年のデータの大きさはきわめて小さい (1921 年は 1,242 語、1945 年は 2,038 語) ため、出てきた値は信頼性が低い (その他の年は、10,000 語から 180,000 語の間のデータ量である)。各語について、使用頻度が高い箇所は灰色を付けた。

表 17：人称代名詞 (*man* を含む) の使用頻度の変遷 (年別)

			<i>man</i>		<i>du</i>		<i>ich</i>		<i>wir</i>	
			F	F pro 1,000 W	F	F pro 1,000 W	F	F pro 1,000 W	F	F pro 1,000 W
Phase 1	1a	1920	63	4.33	11	0.76	72	4.95	360	24.74
		1921	1	0.81	1	0.81	29	23.35	47	37.84
		1922	190	7.45	27	0.82	131	5.14	416	16.31
		1923	188	7.91	20	0.84	40	1.68	306	12.88
		1925	404	7.01	173	3	591	10.26	740	12.84
		1926	315	8.46	13	0.35	276	7.41	565	15.17
		1927	949	7.93	192	1.6	780	6.52	1948	16.29
		1928	1357	7.49	580	3.2	1012	5.49	2797	15.45
		1929	467	8.06	51	0.88	360	6.21	901	15.55
		1930 Jan - März	39	5.78	0	0	16	2.37	164	24.32
	1b	1930 Apr - Dez	520	5.76	206	2.28	558	6.18	1777	19.68
		1931	314	4.52	202	2.91	544	7.82	1626	23.39
		1932	977	6.05	112	0.69	3133	19.39	2674	16.55
		1933 Jan	61	6.52	9	0.96	182	19.45	205	21.91
		1933 Feb - Dez	239	3.75	47	0.74	564	8.86	1232	19.34
Phase 2	2a	1934	67	1.64	2	0.05	341	8.37	509	12.49
		1935	109	2.13	24	0.47	380	7.43	862	16.88
		1936	140	2.08	114	1.69	1091	16.2	1177	17.44
		1937	387	3.71	22	0.21	1296	12.42	1743	16.76
		1938	236	2.74	18	0.21	1230	14.31	1024	11.91
		1939 Jan - Aug	127	2.5	3	0.06	646	12.71	463	9.12
		1939 Sep - Dez	162	5.01	0	0	461	14.26	424	13.11
	2b	1940	288	4.82	30	0.5	972	16.28	965	16.16
		1941	162	3.18	6	0.12	708	13.9	699	13.72
		1942	147	3.18	9	0.19	716	15.48	796	17.21
		1943	19	1.63	1	0.09	112	9.62	139	11.94
		1944	75	3.89	1	0.05	289	14.99	218	11.31
		1945	7	3.43	0	0	23	11.29	12	5.89

この2つの表で言えることは、*man* は第1期前半と比べて第1期後半には使用が明らかに減少し、政権獲得後にはさらに著しく使用が控えられていることである。とくに興味深いことには、同じ1933年でも政権獲得後の2月以降は、政権獲得直前の1933年1月と比べ半減している。ただし、戦争が始まった1939年9月から1年ほどは第1期の頻度に戻っている。同胞を表す親称の *du* に関する一番大きな変化は政権獲得を挟んで第1期後半と第2期前半との間に確認できるが、時代とともに確実に使用が減っている。*ich* については、第2期全体を通じて常に多いというのではないことがわかる。ヒトラーは第1期末の1932年から1933年1月までの最重要な選挙期間中にもっとも頻繁に *ich* を用いて、政権獲得直後の3年間は使用を控えている。そのあと、再び1936年以降は、ヒトラーは安定的な高い頻度で *ich* を使用しているのである。

6. 特徴的な動詞の変遷

6.1 第 1 期と第 2 期の特徴

次に、動詞に関して考察してみよう。第 1 期（全体）と第 2 期（全体）との比較を動詞について行った結果が、次の表 18 と図 10 である。

表 18：動詞の特徴語（第 1 期 vs 第 2 期）

Phase 1 p < 0.0001					Phase 2 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
sagen	644.78	3431	1305	2.20	1 aussprechen	115.20	40	173	5.18
gehen	376.93	1853	677	2.29	2 danken	103.40	32	148	5.54
kommen	195.72	2376	1226	1.62	3 erfahren	83.72	26	120	5.53
fragen	143.80	284	49	4.84	4 sicherstellen	69.93	16	89	6.66
regieren	136.05	302	60	4.20	5 versichern	54.62	52	135	3.11
sehen	95.29	1933	1125	1.44	6 gelingen	52.19	250	374	1.79
retten	90.35	286	79	3.02	7 erweisen	51.73	31	100	3.86
ändern	81.87	323	104	2.59	8 finden	50.58	563	702	1.49
ernähren	81.27	176	34	4.32	9 gedenken	49.20	10	60	7.18
einsetzen	62.38	303	110	2.30	10 entschließen	48.61	61	141	2.77
denken	58.72	420	182	1.93	11 lösen	43.53	205	308	1.80
tun	53.00	1097	641	1.43	12 grollen	42.51	0	27	4
verlieren	50.77	410	186	1.84	13 vergewaltigen	39.36	0	25	4
sterben	50.24	153	41	3.12	14 besetzen	38.76	15	61	4.87
vergessen	49.69	305	124	2.05	15 verpflichten	37.85	58	124	2.56
bleiben	49.60	776	427	1.52	16 verleihen	36.78	9	48	6.39
schreiben	48.63	123	28	3.67	17 fortsetzen	36.75	22	71	3.86
entscheiden	46.10	243	92	2.21	18 verwirklichen	34.79	43	100	2.78
treiben	45.14	160	48	2.78	19 erlassen	34.47	32	84	3.14
prüfen	44.37	111	25	3.71	20 mitteilen	34.17	4	35	10.48

図 10：動詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期 vs 第 2 期）



第 1 期の動詞の特徴語を意味内容に従って大きく関連づけるならば、疑問点を出し（fragen「質問を出す」、prüfen「調べる」、窮状を切り開く（ändern「変える」、retten「救う」、einsetzen「動員する」、ernähren「養う」）動詞が多いことがわかる。このうちいくつかの動詞の前（左）4 語・後（右）4 語に共起する名詞を調べると次のようである。

prüfen の場合 : *Gesichtspunkt* 「観点」 (4L-4R: 3-6、TS: 2.99)、*Vergangenheit* 「過去」 (4L-4R: 3-2、TS: 2.23)。

ändern の場合 : *Schicksal* 「運命」 (4L-4R: 16-3、TS: 4.30)、*Seite* 「陣営」 (4L-4R: 1-9、TS: 3.09)、*Deutschland* 「ドイツ」 (4L-4R: 9-1、TS: 2.75)、*Volk* 「民族」 (4L-4R: 6-6、TS: 2.66)、*Zustand* 「状態」 (4L-4R: 7-0、TS: 2.60)、*Mensch* 「人間」 (4L-4R: 2-7、TS: 2.59)。

retten の場合 : *Deutschland* (4L-4R: 63-11、TS: 8.47)、*Volk* (4L-4R: 27-36、TS: 6.16)、*Wirtschaft* 「経済」 (18-2、TS: 4.41)、*Nation* (4L-4R: 15-0、TS: 3.76)、*Bauer* 「農民」 (4L-4R: 4-3、TS: 2.60)、*Mittelstand* 「中産階級」 (4L-4R: 4-1、TS: 2.22)、*Arbeiter* 「労働者」 (4-1、TS: 2.17)。

einsetzen の場合 : *Bewegung* 「運動」 (4L-4R: 17-5、TS: 4.55)、*Volk* (4L-4R: 16-6、TS: 4.13)、*Kraft* 「力」 (4L-4R: 14-3、TS: 4.00)、*Kampf* 「闘争」 (4L-4R: 5-4、TS: 2.81)、*Dasein* 「存在」 (4L-4R: 6-2、TS: 2.81)。

2つの時期を比べて最も顕著な差異は、第1期の *sagen* 「言う」と第2期の *aussprechen* 「表明する」である。政権掌握後は、単に「言う」ではなくて、明確に「表明する」ことが重要になっている。これは、ヒトラーが公的な行事等で例えば、*Im Namen dieses deutschen Volkes spreche ich euch aber auch den Dank aus für euer tapferes, mannhaftes und unerschütterliches Verharren auf eurem Recht und auf eurer Zugehörigkeit zum Deutschen Reich.* (1939-3-23、メーメルラント、Memelland [現リトアニアの海港都市] 併合に際して)のように、さまざまな機会に謝辞等を伝える必要からきたものと思われる。*danken* 「感謝する」という動詞が第2期の第2位の特徴語になっているのも、このためであろう。*aussprechen* の目的語となるのは、*Dank* 「感謝」のほか、*Ablehnung* 「拒絶」(1936-3-7)、*Auffassung* 「見解」(1934-8-17a)、*Bedauern* 「遺憾」(1935-5-21)、*Wunsch* 「願い」(1937-7-18)などがあるが、いずれの場合も儀礼的・形式的な表現となる。また、*Ich darf heute aussprechen, daß ...* 「私は今日、...であるということを表明させていただきます」(1942-4-26、ベルリン、帝国議会)や *Eines möchte ich hier aussprechen* 「ひとつのことを、私はここで表明したいと思います」(1939-4-1、ヴィルヘルムスハーフェン、Rathausplatz)のように、「今日」、「ここで」表明することが重要なのである：*hier* 「ここで」(1L: 10、

TS: 3.07)、*heute*「今日」(1L: 8、TS: 2.68)。*verleihen*「付与する」も、儀式的・形式的な表現であり、とくに *et*³. *Ausdruck verleihen*「～に表現を付与する(つまり、～を表現する)」という定型表現(4L-4R: 21-0、TS: 4.58)でよく用いられている(3.6を参照)。

第2期に典型的な動詞に関しては、名詞と形容詞の特徴語の場合とは異なり、直接的に戦争と関わる(20以内の)特徴語は、*besetzen*「占領する」と *vergewaltigen*「暴力を加える」くらいで多くはない。上位20以内の動詞を意味の方向性で分けてみると、成功・解決に関わる動詞(*gelingen*「成功する」、*lösen*「解決する」、*finden*「見出す」、*verwirklichen*「実現する」、保証する動詞(*sicherstellen*「保証する」、*versichern*「保証する」、*erweisen*「証明する」、そして情報を授受する動詞(*erfahren*「聞き知る」、*mitteilen*「伝達する」)である。

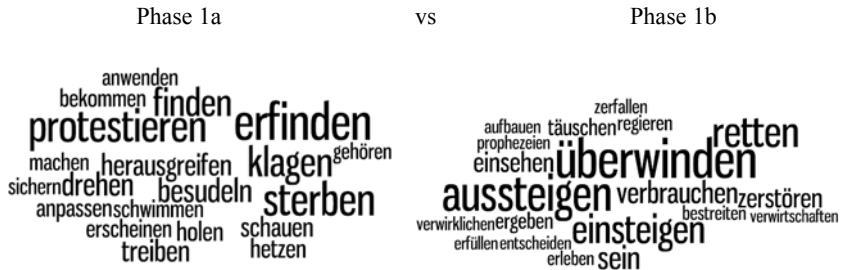
6.2 第1期内的における特徴の変遷

第1期内の前期と後期の比較を行うと、次の表19と図11の通りである。

表19：動詞の特徴語(第1期前期[1a] vs 第1期後期[1b])

Phase 1a p < 0.0001					Phase 1b p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF
erfinden	35.46	42	1	28.18	1 überwinden	69.67	59	136	3.43
sterben	31.67	124	29	2.87	2 aussteigen	63.86	0	35	*
protestieren	31.04	47	3	10.51	3 retten	56.53	108	178	2.46
klagen	28.39	48	4	8.05	4 einsteigen	52.22	1	33	49.18
finden	26.70	26	0	*	5 sein	42.16	48	97	3.01
besudeln	22.59	22	0	*	6 verbrauchen	38.92	6	37	9.19
drehen	21.88	28	1	18.79	7 zerstören	35.83	51	94	2.75
treiben	20.77	123	37	2.23	8 einsehen	35.73	14	48	5.11
herausgreifen	20.54	20	0	*	9 täuschen	29.85	36	71	2.94
schauen	18.77	52	9	3.88	10 ergeben	28.72	37	71	2.86
holen	18.26	36	4	6.04	11 regieren	26.89	136	166	1.82
hetzen	17.86	32	3	7.16	12 erleben	25.10	127	155	1.82
anpassen	17.23	38	5	5.10	13 zerfallen	25.20	22	50	3.39
erscheinen	16.84	142	50	1.91	14 bestreiten	25.13	15	41	4.07
bekommen	16.80	297	131	1.52	15 aufbauen	24.48	137	163	1.77
nachen	16.48	896	479	1.26	16 verwirklichen	23.84	10	33	4.92
schwimmen	16.43	16	0	*	17 prophezeien	23.84	8	30	5.59
anwenden	15.99	61	14	2.92	18 entscheiden	23.38	108	135	1.86
sichern	15.64	84	24	2.35	19 erfüllen	23.32	170	190	1.67
gehören	14.75	186	74	1.69	20 verwirtschaften	22.72	6	26	6.46

図 11：動詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期前期 [1a] vs 第 1 期後期 [1b]）



第1期前半の一番の特徴語である *erfinden*（発明する、創作する）は、*Glas*「ガラス」、*Glühlampe*「白熱電球」、*Benzinmotor*「ガソリンエンジン」、*Kinematograph*「映画撮影機」などを発明する天才の能力に関連して用いられている。その他は、第1期前半には *protestieren*「抗議する」、*klagen*「嘆く」、*sterben*「死ぬ」、*besudeln*「汚す」のような非生産的な意味の動詞や、*treiben*「駆り立てる」、*hetzen*「追い立てる」のような駆動力のある動詞が目立つ。それに対して、第1期後半では、*überwinden*「克服する」、*retten*「救う」、*aufbauen*「構築する」、*verwirklichen*「実現する」、*entscheiden*「決定する」、*erfüllen*「叶える」、*ergeben*「生み出す」、*erleben*「体験する」という建設的な意味の動詞が目立っている。*einsteigen*「乗り込む」と *aussteigen*「降りる」という列車乗降のメタファー的な動詞は、1932年10月18日、19日、23日、24日、26日、28日、29日、30日そして11月3日の演説に限って用いられたものである。1932年10月18日の演説で、

Es gibt heute in Deutschland zahlreiche bürgerliche Freunde, die sich den Kopf darüber zerbrechen, warum wir denn, in dieser Regierung zu regieren, am 13. August nicht wahrgenommen haben. Sie sagen: "Wie konnten Sie damals nicht **einsteigen** in den Zug?" Ich antworte darauf, indem ich sage: "Ich bin nicht **eingestiegen**, weil ich nicht wieder **aussteigen** wollte." (1932-10-18, エルビング、F. Kornick & Söhne 機械工場)

と、ヒトラーが語っているように、ここでは、1932 年 8 月 13 日にヒトラーがヒンデンブルク大統領に連立政府の副首相としての入閣を説得されたが、首相指名以外は断固として拒絶したことが話題とされている。入閣するしないを、列車に

乗車する、列車から降車することに喩えているのは、その行為が自分自身の判断で決定できるのだという考えを反映していると思われる。

6.3 第1期から第2期への移行期における特徴の変遷

第1期後半から第2期前半にかけての推移を、次の表20と図12で見よう。

表20：動詞の特徴語（第1期後期 [1b] vs 第2期前期 [2a]）

Phase 1b p < 0.0001					Phase 2a p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF
sagen	452.65	1358	740	2.57	1 aussprechen	56.14	11	101	6.55
gehen	143.31	687	475	2.03	2 danken	55.57	10	97	6.92
kommen	135.63	903	707	1.79	3 erfahren	47.54	11	91	5.90
regieren	128.94	166	41	5.67	4 sicherstellen	38.42	2	48	17.13
kämpfen	122.51	305	147	2.91	5 feiern	35.44	1	40	28.55
sein	110.70	97	11	12.36	6 abschließen	35.1	3	49	11.66
retten	106.05	178	61	4.09	7 verdanken	32.79	12	76	4.52
fragen	67.36	112	38	4.13	8 sichern	31.21	24	105	3.12
entscheiden	65.74	135	56	3.38	9 erwähnen	30.32	1	35	24.98
aussteigen	61.32	35	0	*	10 grüßen	30.32	1	35	24.98
denken	55.60	197	118	2.34	11 grollen	29.09	0	27	+
verlieren	55.58	186	108	2.41	12 entschließen	26.87	23	96	2.98
überwinden	50.71	136	69	2.76	13 kaufen	25.6	5	46	6.57
einsteigen	49.87	33	1	46.24	14 erhöhen	24.6	9	57	4.52
sehen	41.97	784	792	1.39	15 mithelfen	24.56	15	73	3.47
beginnen	40.91	309	252	1.72	16 ersparen	22.76	2	32	11.42
ändern	40.78	125	69	2.54	17 vergewaltigen	22.62	0	21	+
täuschen	39.63	71	26	3.83	18 bestätigen	21.97	3	35	8.33
einsetzen	36.97	125	73	2.40	19 besprechen	21.55	0	20	+
zerbrechen	36.27	86	40	3.01	20 verleihen	21.41	4	39	6.96

図12：動詞の特徴語のタグクラウド（第1期後期 [1b] vs 第2期前期 [2a]）



すでに述べた *sagen* から *aussprechen* への移行が、この段階で起こっていることがわかる。政権掌握後（第2期前半）になると、ナチ運動の完結（*abschließen* 「完結する」）と成功の原因（*verdanken* 「お陰を蒙っている」）を表すことば、国家運営行事のなかでのことば（*danken* 「感謝する」、*grüßen* 「挨拶する」、*feiern* 「祝いを述べる」）、国民生活向上を保障することば（*sichern* 「保護する」、*sicherstellen* 「保証する」、*erhöhen* 「高める」）が、動詞の特徴語となっている。

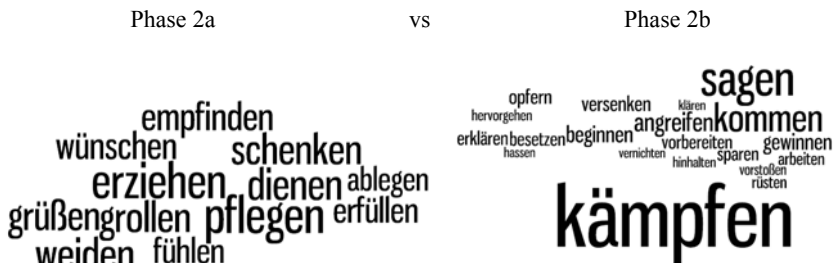
6.4 第2期内的における特徴の変遷

第2期内部の推移は、次の表21と図13の通りである。

表21：動詞の特徴語（第2期前期 [2a] vs 第2期後期 [2b]）

Phase 2a p < 0.0001					Phase 2b p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF
pflanzen	25.76	59	4	7.14	1 kämpfen	109.94	147	216	3.03
erziehen	24.89	99	14	3.42	2 sagen	64.56	740	565	1.58
dienen	22.08	111	19	2.83	3 kommen	50.37	707	519	1.52
weiden	22.11	28	0	1	4 angreifen	34.03	32	55	3.55
schenken	21.32	106	18	2.85	5 gewinnen	29.21	70	82	2.42
grollen	21.33	27	0	1	6 beginnen	29.57	252	205	1.68
grüßen	20.74	35	1	16.95	7 versenken	26.91	1	15	30.98
empfinden	19.50	128	26	2.38	8 opfern	26.30	13	31	4.92
wünschen	18.97	101	18	2.72	9 besetzen	24.98	22	39	3.66
fühlen	17.88	121	25	2.34	10 erklären	24.95	189	158	1.73
erfüllen	17.83	305	91	1.62	11 vorbereiten	24.70	18	35	4.02
ablegen	16.58	49	5	4.75	12 sparen	24.64	0	11	1
					13 arbeiten	22.59	107	101	1.95
					14 rüsten	21.90	11	26	4.88
					15 hervorgehen	19.20	8	21	5.42
					16 vorstoßen	18.55	1	11	22.72
					17 hinhalten	18.55	1	11	22.72
					18 hassen	17.79	17	29	3.52
					19 klären	17.61	39	47	2.49
					20 vernichten	17.46	93	85	1.89

図13：動詞の特徴語のタグクラウド（第2期前期 [2a] vs 第2期後期 [2b]）



第2期後期と比べて第2期前期には大きな特徴語はないが、*erziehen*「教育する」、*wünschen*「願う」、*pflegen*「育成する」、*fühlen*「感じる」、*empfinden*「感じる」など、戦争を予感させない動詞である。一方、第2期後半の特徴語は、*kämpfen*「戦う」、*angreifen*「攻撃する」、*besetzen*「占領する」、*vernichten*「破壊する」、*gewinnen*「勝ち取る」、*hassen*「憎む」、*opfern*「犠牲になる」、*vorstoßen*「突き進む」、*rüsten*「武装する」といった具合に、戦争関連の動詞となっている。

7. 特徴的な話法の助動詞の変遷

話法の助動詞の使用に関して、各時期を比較した結果が次の表 22 である。

表 22：話法の助動詞の特徴語

Phase 1 $p < 0.0001$					Phase 2 $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
müssen	216.77	4298	2490	1.41	mögen	68.64	666	852	1.56
können	82.42	6748	4749	1.16					
wollen	55.23	2552	1691	1.23					

Phase 1a $p < 0.0001$					Phase 1b $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF
müssen					müssen	42.61	2361	1937	1.22
					sollen	33.6	611	575	1.4
					können	26.26	3831	2917	1.13

Phase 1b $p < 0.0001$					Phase 2a $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF
müssen	181.97	1937	1738	1.52					
können	96.39	2917	3175	1.25					
wollen	38.45	1121	1214	1.26					

Phase 2a $p < 0.0001$					Phase 2b $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF
wollen	15.4	1214	477	1.24					

ここからわかるように、第 1 期全体において *müssen*, *können*, *wollen* が第 2 期と比べて特徴的に多く見えるのは、第 1 期後半におけるこれらの助動詞の大量使用によるものである。第 1 期後半における *müssen* と *können* の使用は、その前の第 1 期前半に対しても、そのあとの第 2 期前半に対しても特徴的に多い。そのうちでもとくに *müssen* が第 1 期後半において著しく多い。つまり、ヒトラーは、政権獲得に向けた選挙戦の中で「～ねばならない」を特に頻繁に使い、また *können* と *wollen* も多用して、動詞表現にさまざまな様相(モダリティ)を付けている。第 1 期後半の *müssen* と *können* の前後 7 語内に共起する特徴的な動詞を拾い出すと、次のようである。⁵¹⁾

51) *werden*, *haben*, *sein*, *tun*, *kommen*, *gehen*, *bringen* のような、動詞としての意味が比較的希薄なものは省いている。

müssen の場合 : *sagen* 「言う」(7L-7R: 103-104、TS: 13.86)、*sehen* 「わかる、見る」(7L-7R: 16-28、TS: 5.97)、*beginnen* 「始める」(7L-7R: 14-25、TS: 5.97)、*schaffen* 「成し遂げる」(7L-7R: 16-22、TS: 5.90)、*glauben* 「信じる」(7L-7R: 14-25、TS: 5.70)、*erkennen* 「認識する」(7L-7R: 6-25、TS: 5.42)、*wissen* 「知っている」(7L-7R: 10-21、TS: 5.13)。

können の場合 : *sagen* (7L-7R: 116-210、TS: 17.42)、*glauben* (7L-7R: 56-420、TS: 9.38)、*leben* 「生きる」(7L-7R: 33-18、TS: 6.87)、*sehen* (7L-7R: 29-30、TS: 6.82)、*retten* 「救う」(7L-7R: 32-13、TS: 6.48)、*schaffen* (7L-7R: 27-18、TS: 6.35)、*bestehen* 「存続する」(7L-7R: 28-11、TS: 6.06)、*erfüllen* 「叶える」(7L-7R: 26-7、TS: 5.46)、*kämpfen* 「戦う」(7L-7R: 20-14、TS: 5.39)、*feststellen* 「確認する」(7L-7R: 6-24、TS: 5.33)、*ernähren* 「養う」(7L-7R: 22-7、TS: 5.31)、*verstehen* 「理解する」(7L-7R: 13-17、TS: 5.22)、*wissen* (7L-7R: 14-20、TS: 5.21)、*finden* 「見出す」(7L-7R: 18-13、TS: 5.17)。

どちらの助動詞も *sagen* との結びつきが強く、「～と言わねばならない」こと、「～とすることができる／できない」ことが問題とされている。状況についての自らの認識・判断を、ヒトラーがこの助動詞により表している。そのように考えると、*sehen* 「わかる」、*erkennen* 「認識する」、*wissen* 「知っている」、*feststellen* 「確認する」、*verstehen* 「理解する」のような認識をめぐる動詞がこれらの助動詞と結びつきが強いことも納得がいく。*müssen* と *können* との結びつきが強いもうひとつの動詞は、*glauben* 「信じる」である。*Man kann mir glauben, daß ich mir den Entschluß damals abgerungen habe* 「当時私がやっとの思いで決断することができたのだという私の言い方を、ひとは信じることができる」(1932-11-3、ハノーファー、Schützenplatz)のように、「私を信じる」ということがこの時代の最も重要な訴えかけであった。このことは、後で見るように *Glauben Sie mir* という3語の連鎖が第1期に典型的な語連鎖となっていることからわかる(第11節を参照)。*müssen* と *können* との結びつきが強い残りの動詞は、「救う」、「生きる」、「作る」、「始める」、「実現する」等の建設的意味内容の動詞である。

8. 特徴的な副詞の変遷

副詞の特徴語を、時期別に比較したものが表 23、図 14 である。

表 23 : 副詞の特徴語

Phase 1 p < 0.0001					Phase 2 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
heute	297.75	3390	1718	1.65	auch	318.78	4483	5368	1.43
da	277.33	1484	566	2.19	nunmehr	145.19	96	295	3.68
zugrunde	120.98	369	99	3.11	oft	125.64	143	344	2.88
dann	105.55	4607	3031	1.27	hier	110.81	919	1190	1.55
mehr	99.41	2388	1435	1.39	nun	110.78	1613	1884	1.40
schließlich	90.33	116	9	10.76	sofort	78.39	101	231	2.74
links	85.21	121	12	8.42	sehr	77.19	342	522	1.83
genauso	67.60	180	43	3.50	ebenso	76.78	118	252	2.56
rechts	67.02	100	11	7.59	unterdes	65.08	4	57	17.06
tawohl	67.02	100	11	7.59	jemals	60.59	97	204	2.52

Phase 1a p < 0.0001					Phase 1b p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Ph 1b	RFF
da	88.63	1062	422	1.69	dann	102.1	2418	2189	1.35
also	81.26	375	98	2.57	wieder	57.94	1253	1149	1.37
dort	63.52	315	86	2.46	nunmehr	57.56	21	75	5.32
links	48.72	107	14	5.13	außen	44.25	140	195	2.08
selber	39.20	82	10	5.50	heute	36.15	1856	1534	1.23
besonders	32.09	165	46	2.41	morgen	32.77	75	116	2.30
eben	31.96	209	66	2.13	jetzt	28.19	574	531	1.38
nämlich	30.72	238	81	1.97	vielleicht	23.85	376	362	1.43
zunächst	28.77	256	92	1.87	überhaupt	20.18	359	339	1.41
folglich	27.66	34	1	22.82	immer	17.51	744	627	1.26

Phase 1b p < 0.0001					Phase 2a p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Ph 2a	RFF
heute	269.41	1534	1136	1.89	auch	107.39	1879	3526	1.34
dann	223.83	2189	1922	1.60	oft	66.39	46	211	3.27
außen	97.58	195	79	3.46	besonders	63.67	46	207	3.21
da	72.27	422	336	1.76	hier	59.33	338	772	1.63
genauso	70.05	93	24	5.43	stets	52.28	44	185	3.00
wieder	66.31	1149	1145	1.41	sofort	48.35	22	124	4.02
mehr	61.62	987	969	1.43	sehr	46.27	128	351	1.96
morgen	60.92	116	45	3.61	ebenso	45.58	53	195	2.63
jetzt	58.02	531	458	1.62	allein	43.17	231	535	1.65
denn	47.31	228	158	2.02	selber	40.91	10	80	5.71

Phase 2a p < 0.0001					Phase 2b p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Ph 2b	RFF
stets	64.86	185	18	4.98	damals	104.85	453	439	2.00
vielmehr	26.31	49	2	11.86	ja	88.97	667	559	1.73
allein	21.60	535	175	1.48	bereits	61.68	87	125	2.97
untereinander	19.82	45	3	7.26	überhaupt	49.83	375	314	1.73
					nun	45.32	1130	754	1.38
					jetzt	41.85	458	353	1.59
					selber	40.96	80	101	2.61
					schon	40.25	711	501	1.46
					dort	39.76	174	168	1.99
					noch	39.42	1160	756	1.35

図 14：副詞の特徴語のタグクラウド（第 1 期 vs 第 2 期）



第 1 期ではヒトラーの口から「今日」(*heute*) の状況の悲惨さが語られ、第 2 期ではドイツが「今や」(*nunmehr, nun*) 改善されたことが語られる。*dann* 「その場合には、そのとき」に注目すると、興味深いことがわかる。*dann* は第 1 期全体にとって典型的な副詞であり (LLR: 105.55)、さらに細かく見ると、第 1 期前半と比較しても (LLR: 102.10) また第 2 期前半と比較しても (LLR: 223.83)、第 1 来後半の特徴語である。すなわち、ヒトラーは *dann* を、第 1 期後半にきわめて好んで用いている。このことは、仮定を表す接続詞 *wenn* 「もし～ならば」の使用状況とちょうど対応している。次の表 24 と表 25 (表中の *weil* については後述する) でわかるように、*wenn* も第 1 期全体にとって典型的な語であり、しかも第 1 期後半に多く用いられている。

表 24 : 特徴語としての *wenn* と *weil* (第 1 期 vs 第 2 期)

Phase 1 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
wenn	599.40	6519	3260	1.67
weil	132.40	1100	575	1.60

表 25⁵²⁾ : *wenn* と *weil* の特徴度の変遷 (半期ごと)

	wenn			weil		
	F	LLR-Differenz	Signifikanz-niveau	F	LLR-Differenz	Signifikanz-niveau
Phase 1a	3700			1100		
Phase 1b	2819	25.62	< 0.0001	575	-24.13	< 0.0001
Phase 2a	2166	-447.22	< 0.0001	598	-25.91	< 0.0001
Phase 2b	1094	1.28	> 0.0001	276	0.44	> 0.0001

副詞 *dann* の使用状況と接続詞 *wenn* の使用状況とが平行的であることは、*Wenn ..., dann ...* (「もし～ならば、そのときは～」) という表現形式のことを思い出すと理解できる。つまりヒトラーは、第 1 期後半において第 1 期前半よりも頻繁に *Wenn ..., dann ...* を口にして⁵³⁾、その仮定を前提にして議論を進めたが、第 2 期前半になる

52) この表では、表 16 と同様に、LLR-Differenz (対数尤度比の差) という欄にマイナスが書かれてる場合は、使用が直前の半期よりも減少していることを表す。マイナスではなくプラスの表示の箇所では、使用が直前の半期よりも増加していることを表す。

53) *Wenn Deutschland seine Waffen niederlegt, dann tritt der Zustand ein, den wir alle ersehnen,*

と、つまり政権を獲得してからは、仮定を前提に話を進める必要度が圧倒的に少なくなったと解釈できよう。次に、*also*「したがって」は、第1期前半の大きな特徴語となっている。これは、第1期前半では論理的理由(原因)からの帰結(「～なので、[したがって]～である」)が多く語られたのだと解釈することが可能である。このことは、論理的理由を表す接続詞 *weil*「～なので」の頻度を調べてみることでサポートされる。すなわち、上の表24と表25にあるように、*weil*も第1期前半における有意な特徴語(LLR: 24.13)である。表25でわかるように、論理的理由を表す働きをする *weil* は、時代が下るにつれ減少して行っている。次に第2期における推移としては、第2期前半が *damals* (当時)、*bereits* (すでに)、*schon*「すでに」、*noch*「まだ」、*jetzt*「今」、*nun*「今」のように時間の相対性を表す副詞が特徴語となっているのに対して、第2期後半では *stets*「常に」という超時間的・永続的な時間副詞が特徴語となっている。

9. 評価の形容詞の変遷

9.1 全体的比較

今まで品詞別に考察を行ってきたが、ここでは、評価を行う形容詞に注目して考察を行ってみたい。⁵⁴⁾ ネガティブな意味の形容詞とポジティブな意味の形容詞に分けて各時期を比較すると、表26と表27のとおりになる。

der Zustand des Friedens, des ewigen Friedens, der Völkerversöhnung, der Völkerverständigung, des Völkerbundes. (1930-8-10、キール、Lokal „Deutsche Wacht“); **Wenn** dieser Prozeß mißlingt, **dann** geht der Prozeß der Zerstörung Deutschlands zwangsläufig weiter. (1932-3-10、ドルトムント、Westfalenhalle).

54) 評価の形容詞の分類については、Ebling/Scharloth/Dussa/Bubenhofer (im Druck)を参照。

表 26：評価の形容詞の特徴度の相違⁵⁵⁾

phase 1 vs phase 2

	LLR	Signifikanz- niveau	F: Ph 1, absolut	F: Ph 1 je 1000 Wörter	F: Ph 2, absolut	F: Ph 2 je 1000 Wörter
negative Adj	-12.02	>0.0001	1989	2.41	1858	2.70
positive Adj	-99.21	<0.0001	5724	6.95	5758	8.65

表 27：評価の形容詞の特徴度の変遷（半期ごと）⁵⁶⁾

	negative Adj			positive Adj		
	F	LLR- Differenz	Signifikanz- niveau	F	Differen- z	Signifikanz- niveau
Phase 1a	1255			3600		
Phase 1b	734	-8.85	>0.0001	2124	-22.37	<0.0001
Phase 2a	1283	23.25	<0.0001	4137	157.1	<0.0001
Phase 2b	575	-2.40	>0.0001	1621	-53.8	<0.0001

表 26 でわかるように、第 1 期全体と第 2 期全体を比較すると、0.01%水準で有意な差はポジティブな意味の形容詞について確認でき（LLR: 99.21）、ポジティブな意味の形容詞が第 2 期のほうに特徴的に多く見られる。半期ごとに詳細に比較してみると、表 27 にあるように、ネガティブな形容詞については、0.01%水準で有意な差は第 1 期後半と第 2 期前半との間にしか存在しない（LLR: 23.25）。政権掌握前の選挙戦（第 1 期後半）では、ネガティブな形容詞の使用が政権掌握後（第 2 期前半）と比べて差し控えられていたことになる。LLR が 8.85 で 0.01%水準を満たさないものの、第 1 期後半は第 1 期前半と比べてもネガティブな形容詞の使用頻度が少ないことがわかる。一方、ポジティブな形容詞については、時代的な差異が大きい。第 1 期後半は、第 1 期前半と比べるとポジティブな形容詞の使用頻度が有意差をもって減少している（LLR: 22.37）。ポジティブな形容詞はしかし、政権掌握後は圧倒的に増加し（LLR: 157.07）、そのあと開戦後は有意差を持って減少している（LLR: 53.8）。つまり、第 2 期前半が、最もポジティブな形容詞について目立った使用をしている時期である。総括すると、第 1 期後半における政

55) この表で LLR にマイナスの符号がついているところは、第 2 期と比べて第 1 期のほうが使用頻度が少ないことを示す。

56) この表では、表 25 と同様に、LLR-Differenz 欄のマイナスは、使用が直前の半期よりも減少していること、マイナスが付いていないのはを増加していることを表す。

権掌握に向けた選挙活動中には、ネガティブな形容詞を控えたが、けっしてポジティブな形容詞を増やしたわけではない。ポジティブな形容詞は、政権獲得から開戦に至る第2期前半に、圧倒的に頻繁に用いられたのである。

9.2 ネガティブな意味の形容詞の変遷

具体的な語レベルでネガティブな意味の評価の形容詞を比較すると、次の表 28 の通りである。

表 28： ネガティブな意味の形容詞⁵⁷⁾

Phase 1 vs Phase 2 $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
entsetzlich	22.60	82	25	2.74
bedauerlich	-17.34	6	26	0.19
furchtbar	-18.97	39	75	0.43

Phase 1a vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Rest	RFF
brutal	21.09	58	49	2.45
widerlich	17.92	8	0	*
grausam	16.47	34	24	2.93
verschrien	15.68	7	0	*
belanglos	-18.53	15	90	0.34
schlimm	-23.28	20	117	0.35

Phase 1b vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Rest	RFF
belanglos	33.79	50	55	3.25

Phase 2a vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Rest	RFF
bedauerlich	31.11	24	6	9.05
primitiv	24.14	59	52	2.57
furchtbar	21.88	59	55	2.43
bedrohlich	17.49	13	3	9.80
entsetzlich	-22.83	12	95	0.29

Phase 2b vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	2a	F: Rest	RFF
-------	-----	----	---------	-----

ネガティブな意味の形容詞としては、第2期と比較して第1期に最も典型的なのは *entsetzlich* 「恐ろしい」であり、第1期と比較して第2期に最も典型的なのは *furchtbar* 「恐ろしい」となっている。その直後に現れる名詞は、*entsetzlich* の場合

57) この表 28 の見方を、一番初めの表を例にして説明しておこう。この表において、形容詞 *entsetzlich* は第1期において LLR: 22.60 をもって頻繁に現れている。一方、この表の一番下にある *furchtbar* は第2期において LLR: 18.97 をもって頻繁に現れ、次に *bedauerlich* が続く。マイナスの LLR は、第1期のほうが頻度が低いことを表している。続く表で、「Phase 1a vs Rest」のようにあるのは、特定の半期を残りのすべての時期と比較していることを示している。

は第1期において頻度3回のものが *Bedeutung* 「意味」、2回のものが *Entartung* 「堕落」、*Geschehen* 「出来事」、*Folge* 「帰結」、*Zeit* 「時代」であり、*furchtbar* の場合は第2期において頻度3回のものが *Folge*、2回のものが *Schaden* 「損害」、*Leid* 「苦悩」、*Wirklichkeit* 「現実」、*Bedeutung*、*Zusammenbruch* 「崩壊」、*Erscheinung* 「現象」、*Schicksal* 「運命」である。このふたつの形容詞に差異を見つけるのは容易ではない。他の時期と比べて第1期前半に最も特徴的となっているネガティブな形容詞 *brutal* 「残忍な」に関して、Schmitz-Berning (2000) は「ナチの言語使用においては、味方の陣営に関わる用法では価値の切り上げが起こっている」(Schmitz-Berning 2000: 129) と述べている。つまり、*brutal* という語を味方について用いた場合、「妥協しない強い決心をもった」という(ナチズムにとって)ポジティブな意味の形容詞として機能するというのである。前後それぞれ4語内の共起関係を調べると次のようである：*Gewalt* 「暴力」(4L-4R: 0-6, TS: 2.45)、*Wille* 「意志」(4L-4R: 2-3, TS: 2.26)、*Rücksichtslosigkeit* 「容赦のなさ」(4L-4R: 0-4, TS: 2.00)。⁵⁸⁾ *Wille* と共起していること、また「ポジティブなものへと機能替えされた」(Bork 1970: 25) *Rücksichtslosigkeit* という概念と共起していることからして、たしかにヒトラーは演説で少なくないケースにおいて *brutal* という語をポジティブに用いている。この点は、ナチズムの言語に関して意味のネガティブ性とポジティブ性に考察を加える際の特定の困難さを示唆している。*grausam* 「残酷な」は、前後それぞれ4語内の共起関係を調べると、*Welt* 「世界」(4L-4R: 2-3, TS: 2.21)、*Mensch* 「人間」(4L-4R: 5-0, TS: 2.18) である。第1期後半の特徴語となっている *belanglos* 「些末な」は、前後それぞれ4語内の共起関係を調べると、*gänzlich* 「まったく」(4L-4R: 9-0, TS: 3.00) とよく組み合されている。

58) *Denn diese rein geistige Arbeit schob sich schon in Friedenszeiten eine Partei hinein, die entschlossen war, ihre ganz besonders ausgeprägte Weltanschauung, wenn notwendig, auch mit brutalster Gewalt zu vertreten [...]* (1928-6-6、ミュンヘン、突撃隊集会)。Denn sie [=die Masse] repräsentiert den **brutalen Willen** zur Selbsterhaltung, in ihr vor allem schlummert die Kraft des Kampfes ums Dasein in dieser Welt. (1925-12-16、シュトゥットガルト、Liederhalle)。Sie [=die Regierung] soll, ich möchte fast sagen, mit **brutaler Rücksichtslosigkeit** ihre als richtig erkannten Ideen durchdrucken, gestützt auf die tatsächliche Autorität der Starke im Staate. (1922-4-12、ミュンヘン、Bürgerbräukeller)。

9.3 ポジティブな意味の形容詞の変遷

具体的な語レベルでポジティブな意味の評価の形容詞を比較すると、次の表 29 の通りである。

表 29：ポジティブな意味の形容詞

Phase 1 vs Phase 2 $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
lieb	117.38	478	157	2.54
vollkommen	34.25	206	83	2.07
logisch	31.68	68	13	4.37
gesund	23.92	260	130	1.67
weise	21.85	75	22	2.85
grandios	20.03	29	3	8.07
göttlich	15.67	35	7	4.18
tatkräftig	15.16	32	6	4.45
konstruktiv	-16.03	3	19	0.13
unvergleichlich	-16.03	3	19	0.13
wirksam	-16.28	12	35	0.29
anständig	-16.88	65	103	0.53
führend	-17.88	24	54	0.37
herrlich	-19.58	24	56	0.36
schöpferisch	-22.02	27	63	0.36
einfach	-26.40	159	225	0.59
hervorragend	-28.79	4	31	0.11
geeignet	-30.23	36	85	0.35
vernünftig	30.23	36	85	0.35
einzigartig	-32.35	5	36	0.12
schön	-34.26	42	98	0.36
stark	-37.82	201	293	0.57
nützlich	-38.18	23	74	0.26
verständlich	-42.10	38	101	0.31
wunderbar	-62.03	22	94	0.20
aufrichtig	-76.54	14	90	0.13
erfolgreich	-97.10	12	101	0.10
tapfer	-123.01	14	125	0.09

Phase 1a vs Rest $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1a	F: Rest	RFF
lieb	206.60	384	251	3.16
vollkommen	99.22	177	112	3.27
ausgewählt	24.65	11	0	*
gesund	22.34	172	218	1.63
bedeutend	20.80	34	20	3.51
tatkräftig	17.47	25	13	3.97
grandios	17.45	22	10	4.55
zielbewußt	15.68	7	0	*
wertvoll	15.14	46	41	2.32
wirksam	-15.54	4	43	0.19
vernünftig	-16.05	20	101	0.41
geeignet	-17.89	19	102	0.38
wichtig	-20.67	55	217	0.52
nützlich	-21.38	12	85	0.29
verständlich	-28.70	18	121	0.31
stark	-28.98	107	387	0.57
schön	-29.21	18	122	0.30
erfolgreich	-39.45	9	104	0.18
aufrichtig	-44.92	6	98	0.13
wunderbar	-53.05	6	110	0.11
tapfer	-60.12	8	131	0.13

Phase 1b vs Rest $p < 0.0001$				
Lemma	LLR	F: Ph 1b	F: Rest	RFF
göttlich	66.65	33	7	16.83
weise	54.45	54	41	4.70
logisch	15.06	33	47	2.51
aufrichtig	-15.32	8	96	0.30
einfach	-17.45	52	332	0.56
lieb	-20.39	94	541	0.62
planmäßig	-24.95	6	109	0.20
friedlich	-25.41	16	176	0.32
vollkommen	-28.21	29	260	0.40
tapfer	-34.48	6	133	0.16
erfolgreich	-35.76	3	110	0.10

Phase 2a vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 2a	F: Rest	RFF
aufrichtig	94.37	80	24	7.54
einzigartig	48.93	33	6	12.44
schön	44.11	81	59	3.10
verständlich	40.64	79	60	2.98
nützlich	39.99	60	37	3.67
wunderbar	38.58	68	48	3.20
herrlich	34.34	50	30	3.77
anständig	30.58	86	82	2.37
schöpferisch	28.20	52	38	3.09
einfach	27.96	167	217	1.74
wirksam	27.78	32	15	4.82
konstruktiv	25.48	17	3	12.81
geeignet	23.89	63	58	2.46
stark	19.66	198	296	1.51
geistreich	18.19	17	6	6.41
souverän	18.04	29	19	3.45
tapfer	17.17	66	73	2.04
erträglich	15.18	21	12	3.96
vollkommen	-17.67	57	232	0.56
lieb	-70.16	103	532	0.44

Phase 2b vs Rest $p < 0.0001$

Lemma	LLR	F: Ph 2b	F: Rest	RFF
tapfer	61.28	59	80	4.23
erfolgreich	49.92	48	65	4.24
tragbar	18.67	11	8	7.89
gesegnet	15.45	7	3	13.38
lebendig	-16.18	14	210	0.38
ehrlich	-16.39	5	123	0.23
lieb	-23.31	54	581	0.53
gesund	-37.47	20	370	0.31

第2期全体と比較して第1期全体に最も特徴的な (LLR: 117.38) *lieb*「親愛な、好ましい」は、第1期前期に最も典型的な (LLR: 206.60) ポジティブな形容詞でもある。第1期前半にこの語の前後にそれぞれ4語以内に共起する名詞を調べると、*Freund*「友人」(4L-4R: 1-212, TS: 14.38)、*Völksgenosse*「民族同胞 (男性)」(4L-4R: 1-44, TS: 6.70)、*Völksgenossin*「民族同胞 (女性)」(4L-4R: 0-20, TS: 4.47)、*Gott*「神」(4L-4R: 0-16, TS: 3.98)、*Volk*「民族」(4L-4R: 9-10, TS: 3.64)、*Parteigenosse*「党员」(4L-4R: 1-8, TS: 2.95)、*Vaterland*「祖国」(4L-4R: 8-1, TS: 2.95)である。これは、この早い時期にヒトラーが目の前にした聴衆が、「友人」、「同胞」と称することができる近い存在が多かったことと関連していると思われる。逆に、第1期(全体)と比べて第2期全体に最も特徴的な (LLR: 123.01) *tapfer*「勇敢な」が、第2期後半に最も典型的なポジティブな形容詞であることは、第2期後期が戦中であることから容易に説明できる。第2期後半にこの語の前後にそれぞれ4語以内に共起する名詞を調べると、*Soldat*「兵士」(4L-4R: 0-8, TS: 2.80)、*Mann*「男」(4L-4R: 0-8, TS: 2.80)、*Volk* (4L-4R: 0-5, TS: 2.08)である。

そのほか、各時期に典型的なポジティブな形容詞を見ると、各時期にどのような性質・特質が求められたかをうかがい知ることができる。第1期前半では *lieb*、*vollkommen*「完全な」が、第1期後半では *göttlich*「神の」、*weise*「賢明な」が、第2期前半では *aufrichtig*「誠実な」、*einzigartig*「無比の」、*schön*「美しい、すなわらしい」、*verständlich*「わかりやすい」、*nützlich*「役に立つ」が、第2期後半では

tapfer, erfolgreich「成果の豊かな」が特徴語となっている。第2期前半は、ポジティブな形容詞の使用頻度が高いだけでなく、その種類も豊富である。

第1期後半は、*göttlich*が一番の特徴語となっているが、これはほとんどもっぱら *Ordnung*「秩序」(4L-4R: 2-28, TS: 5.48) との組み合わせで用いられている(4.2も参照)。ヒトラーが自らと「神の秩序」との関係をどう捉えているかは、次の演説中のことばで言い尽くされている: *[...] Verfassung gibt's schon längst nicht mehr. Jetzt ist anstelle der Verfassung die göttliche Ordnung getreten, und der Exponent der göttlichen Ordnung bin ich [...]*「憲法がなくなってから、すでに久しい。今、この憲法に代わって神の秩序が現れた。そしてこの神の秩序を代理するのが、この私である」(1932-10-23、ツヴィッカウ、Sportplatz)。第2期前半の最も特徴的な *aufrichtig* は、人間が「誠実である」という意味でよりも、公的・形式的な定型的表現で使用されている。この語の前後それぞれ4語以内に共起する名詞は、*Wunsch*「願い」(4L-4R: 0-7, TS: 2.64)、*Dank*「感謝」(4L-4R: 0-6, TS: 2.44)、*Freundschaft*「友情」(4L-4R: 1-4, TS: 2.23) である。⁵⁹⁾

10. 程度の副詞の変遷

次に、修飾される語を強めたり弱めたりする「程度の副詞」(Gradpartikel, Intensivierer)について、時代的変遷を見てみよう。程度の副詞として、次の7種類を区別しておく。⁶⁰⁾

1. 絶対的程度 (absolut) を表すもの: *absolut, gänzlich, gründlich, rein, restlos, überhaupt, unbedingt, voll, grundsätzlich, ganz, entschieden, wirklich, bestimmt, praktisch, sicher* 等
2. 極度 (extremhoch) を表すもの: *höchst, möglichst, wunderbar, undenkbar*

59) *Daß sich diese Zusammenarbeit mit Italien und Japan immer mehr vertiefen möge, ist mein aufrichtigster Wunsch.* (1938-2-20、ベルリン、帝国議会) *Wie immer, erfüllt mich auch dieses Mal die Empfindung eines aufrichtigen Dankes für alle die, deren Arbeit wir hier in wenigen Minuten wieder bewundern können.* (1938-2-18、ベルリン、国際自動車展示会) *In einer Zeit, in der die Welt voll ist von Spannungen und unruhigen Verwirrungen, in der gefährlichste Elemente es versuchen, die alte Kultur Europas anzugreifen und zu zerstören, haben sich Italien und Deutschland in aufrichtiger Freundschaft und gemeinsamer politischer Zusammenarbeit gefunden.* (1937-9-27、ベルリン、ムッソリーニ訪問に際しての夜会)

60) 程度の副詞の分類については、Bubenhofer/Scharloth (im Druck), 3.3 を参照。

等

3. 高程度 (hoch) を表すもの : *sehr*、*stark*、*gewaltig*、*besonders*、*genug*、*entscheidend*、*viel*、*wesentlich*、*gerade*、*eben* 等
4. 穏便な程度 (gemäßigt) を表すもの : *recht*、*mehr*、*verhältnismäßig*、*ziemlich*、*eher* 等
5. 和らげる程度 (abschwächend) を表すもの : *etwas*、*leicht*、*irgendwie*、*gewißermaßen* 等
6. 最小の程度 (minimal) を表すもの : *wenig*、*kaum*、*schwerlich* 等
7. 近似的程度 (aproximativ) を表すもの : *fast*、*geradezu*、*annähernd*、*beinahe* 等.

程度の副詞について各時期を比較した結果が、次の表 30 である。

表 30：程度の副詞の変遷

phase 1 vs phase 2

	LLR	Signifikanz- niveau	F: Ph 1	F: Ph 2
GESAMT	-32.33	< 0.0001	4366	4126
absolut	-0.83	> 0.0001	2447	2100
extremhoch	-21.92	< 0.0001	82	131
hoch	-56.32	< 0.0001	712	868
gemäßigt	0.85	> 0.0001	704	558
abschwächend	-0.45	> 0.0001	272	241
minimal	-9.67	> 0.0001	69	94
approximativ	-25.23	< 0.0001	80	134

phase 1a vs phase 1b

	LLR	Signifikanz- niveau	F: Ph 1a	F: Ph 1b
GESAMT	-0.33	> 0.0001	2594	1772
absolut	0.05	> 0.0001	1470	977
extremhoch	-0.22	> 0.0001	47	35
hoch	-0.99	> 0.0001	413	299
gemäßigt	-1.20	> 0.0001	407	297
abschwächend	-0.22	> 0.0001	159	113
minimal	4.80	> 0.0001	50	19
approximativ	0.00	> 0.0001	48	32

phase 1b vs phase 2a

	LLR	Signifikanz- niveau	F: Ph 1b	F: Ph 2a
GESAMT	-210.69	< 0.0001	1172	2691
absolut	0.28	> 0.0001	977	1339
extremhoch	-8.40	> 0.0001	35	86
hoch	-25.34	< 0.0001	299	595
gemäßigt	3.28	> 0.0001	297	361
abschwächend	0.01	> 0.0001	113	156
minimal	-15.80	< 0.0001	19	69
approximativ	-10.34	> 0.0001	32	85

phase 2a vs phase 2b

	LLR	Signifikanz- niveau	F: Ph 2a	F: Ph 2b
GESAMT	-8.61	> 0.0001	2691	1435
absolut	-12.25	> 0.0001	1339	761
extremhoch	0.18	> 0.0001	86	45
hoch	0.55	> 0.0001	595	273
gemäßigt	-1.80	> 0.0001	361	197
abschwächend	-0.76	> 0.0001	156	85
minimal	1.61	> 0.0001	69	25
approximativ	-0.93	> 0.0001	85	49

表 30 でわかるように、程度の副詞は第 2 期のほうに多く使われている。全体 (Gesamt) としての程度の副詞は、第 1 期全体と第 2 期全体を比べると LLR: 32.33 で、第 1 期後半と第 2 期前半とを比べると LLR: 210.69 で、それぞれ後者のほうの時期に特徴的である。つまり、政権掌握後にヒトラーは程度差に関して細やかな違いを付加したということになる。そのなかでも、「高程度」(hoch) を表す副詞に一番大きな差が出ている(第 1 期全体と第 2 期全体を比較すると LLR: 56.32、第 1 期後半と第 2 期前半を比較すると LLR: 25.34)。具体的には、*gerade* 「ちょうど、まさに」が LLR: 32.82 (Frequenz Ph1: 66, Ph2: 146)、*sehr* 「ひじょうに」が LLR: 32.82 (Frequenz Ph1: 127, Ph2: 201)、*besonders* 「とくに」が LLR: 18.43 (Frequenz Ph1: 38, Ph2: 73) で、第 1 期全体よりも第 2 期全体において頻繁に用いられている。ヒトラーが、発言内容に関して確信をもっていることがうかがえる。「極度」(extremhoch) を表す副詞も、第 1 期に対して第 2 期において特徴的である。具体的な語としては *wunderbar* 「すばらしく」が LLR: 34.39 (Frequenz Ph1: 10, Ph2: 48) で大きな有意差がある。同様に、「近似的程度」(approximativ) を表す副詞も第 1 期後半に対して第 2 期前半に特徴的である。語としては、*fast* 「ほとんど」が LLR: 15.24 (Frequenz Ph1: 45, Ph2: 77) で、有意差がある。0.01%水準で有意な相違は、第 1 期の内部 (第 1 期前半と第 1 期後半を比べた場合) および第 2 期の内部 (第 2 期前半と第 2 期後半を比べた場合) においては確認できない。

11. 特徴的な単語の 3 連鎖、4 連鎖、5 連鎖

最後に、コーパスに現れる単語 3 つの連鎖、4 つの連鎖、5 つの連鎖について、第 1 期と第 2 期に特徴的なものを抽出してみよう。その結果は、次の表 31、表 32、表 33 の通りである⁶¹⁾(表 31 については上位 50 の単語連鎖を挙げた。)その際、例えば *Adolf Hitler Deutsche*、*Sie nicht daß* のような、それ自体で意味的まとまりのない連鎖は除外する。

61) それぞれ、左の一覧表は第 1 期に典型的な連鎖、右の一覧表は第 2 期に典型的な連鎖である。

表 31 : 3 語の連鎖

phase 1				phase 2			
3-gram	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	3-gram	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2
Grund und Boden	161.88	181	9	unter allen Umständen	99.03	0	63
Herr von Papen	103.40	85	0	Es ist daher	65.85	10	73
13 Jahre lang	86.37	71	0	unter keinen Umständen	62.79	6	61
der Bayerischen Volkspartei	66.91	55	0	Deutschland	53.44	0	34
die Bayerische Volkspartei	62.04	51	0	die übrige Welt	53.44	0	34
Hitler Deutsche Volksgenossen	57.18	47	0	die deutsche Wehrmacht	53.44	0	34
meine lieben Freunde	55.96	46	0	Revolution	53.44	0	34
Millionen von Menschen	49.17	76	9	der deutschen Wehrmacht	50.30	0	32
Glauben Sie mir	47.76	83	12	der nationalsozialistischen Partei	50.30	0	32
Meine lieben Freunde	46.23	38	0	politischen und wirtschaftlichen	48.73	0	31
die politische Macht	45.01	37	0	im Jahre 1933	48.73	0	31
vor 13 Jahren	43.79	36	0	des Deutschen Reiches	47.17	25	86
der linken Seite	42.58	35	0	der nationalsozialistische Staat	47.16	0	30
Mein lieber Freund	42.21	60	6	15 Jahre lang	47.16	0	30
in 13 Jahren	40.14	33	0	in anderen Ländern	44.01	0	28
die bürgerlichen Parteien	40.14	33	0	auf dem Quadratkilometer	42.44	0	27
heute in Deutschland	39.94	72	11	in dieser Stunde	40.74	7	47
die Frage vorlegen	39.31	54	5	früher oder später	40.52	8	49
eine solche Bewegung	38.93	32	0	Die deutsche Reichsregierung	39.30	0	25
die beiden Begriffe	38.93	32	0	meine alten Parteigenossen	37.73	0	24
In dem Augenblick	36.49	30	0	des Deutschen Reichstages	37.73	0	24
das deutsche Bürgertum	34.06	28	0	im vergangenen Jahr	37.73	0	24
am 13 August	34.06	28	0	des Versailler Vertrages	34.58	0	22
mein lieber Freund	33.13	48	5	sondern im Gegenteil	34.05	18	62
der politischen Macht	32.85	27	0	für uns alle	33.58	5	37
Nationalismus und Sozialismus	31.63	26	0	Das Deutsche Reich	33.01	0	21
62 Millionen Menschen	30.41	25	0	von jetzt ab	31.98	6	38
in der Gesamtheit	30.41	25	0	in diesem Jahr	31.98	6	38
der weisen Rasse	29.20	24	0	in diesem Augenblick	31.92	10	46
seit 13 Jahren	29.20	24	0	in der Zukunft	31.63	76	139
ein solches Volk	28.20	46	6	das Deutsche Reich	30.06	29	75
das alte Deutschland	27.98	23	0	am heutigen Tage	29.87	0	19
Autorität der Persönlichkeit	26.76	22	0	wie schon betont	29.87	0	19
Millionen von Deutschen	26.76	22	0	am 30 Januar	29.87	0	19
seit 12 Jahren	26.76	22	0	des nationalsozialistischen Staates	28.29	0	18
in die Regierung	26.76	22	0	in der Luft	28.29	0	18
die alten Parteien	25.55	21	0	Volk und Reich	28.29	0	18
eine neue Bewegung	24.33	20	0	die nationalsozialistische Partei	27.39	4	30
diese beiden Begriffe	24.33	20	0	England und Frankreich	27.08	5	32
müssen wir sagen	24.33	20	0	40 Millionen Quadratkilometer	26.72	0	17
Sozialismus und Nationalismus	23.11	19	0	die deutsche Volksgemeinschaft	26.72	0	17
auf den Boden	23.11	19	0	die nationalsozialistische	26.72	0	17
der Bayerische Kurier	23.11	19	0	Revolution	26.72	0	17
Kurz und gut	23.11	19	0	Deutschland und Italien	26.72	0	17
von oben herunter	21.90	18	0	des vergangenen Jahres	26.59	3	27
am 9 November	21.90	18	0	Männer und Frauen	25.68	6	33
die politische Kraft	21.90	18	0	das kann ich	25.15	0	16
an dem Tage	21.90	18	0	die deutsche Heimat	25.15	0	16
auf die Straße	21.90	18	0	Die deutsche Regierung	25.15	0	16
in unsere Reihen	21.90	18	0	Sieger und Besiegte	25.15	0	16
auf dem Boden	21.08	46	9	Frauen und Kinder	25.15	0	16
				in der Vergangenheit	24.54	15	48

表 32 : 4 語の連鎖

phase 1				phase 2			
4-gram	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	4-gram	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2
uns die Frage vorlegen	34.06	28	0	in Stadt und Land	33.01	0	21
in den 13 Jahren	27.98	23	0	Sieg Heil Adolf Hitler	32.74	4	34
deutschen Volksgenossen und Volksgenossinnen	25.55	21	0	dem ganzen deutschen Volk	25.15	0	16
am 13 August 1932	25.55	21	0	sondern vor allem auch	25.15	0	16
Glauben Sie nicht dass	24.33	20	0	die Macht in Deutschland	23.58	0	15
in diesen 13 Jahren	24.33	20	0	kann ich nur sagen	22.77	10	38
um das tägliche Brot	24.33	20	0	Kampf um die Macht	22.01	0	14
Meine lieben deutschen Volksgenossen	21.90	18	0	auch in der Zukunft	21.29	12	40
von Jahr zu Jahr	21.53	39	6	Männer des Deutschen Reichstags	20.43	0	13
den Grund und Boden	17.03	14	0	in diesen drei Jahren	20.43	0	13
der Grund und Boden	17.03	14	0	Menschen auf den Quadratkilometer	20.43	0	13
am 31 Juli 1932	15.81	13	0	und vor allem auch	18.86	0	12
Ich kann nicht sagen	15.81	13	0	in diesen vier Jahren	18.86	0	12
				Ich bin der Überzeugung	17.29	0	11
				können Sie überzeugt sein	17.29	0	11
				Männer des Deutschen Reichstages	17.29	0	11
				vor allem aber auch	17.29	0	11
				ich bin der Überzeugung	15.72	0	10
				In eben dem Maße	15.72	0	10
				in Frieden und Freundschaft	15.72	0	10

表 33 : 5 語の連鎖

phase 1				phase 2			
5-gram	LLR	Ph: Ph 1	F: Ph 2	5-gram	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2
wir uns die Frage vorlegen	32.85	27	0	Ich bin der Überzeugung dass	15.72	0	10
Wenn wir uns die Frage	26.76	22	0				

第 1 期に目立つ 3 語、4 語、5 語の連鎖は、1932 年時点から見た「13 年前」の第 1 次大戦の敗戦体験を語る語連鎖である：*vor 13 Jahren*「13 年前に」、*seit 13 Jahren*「過去 13 年来」、*13 Jahre lang*「13 年間」、*in 13 Jahren*「13 年において」、*in den 13 Jahren*「その 13 年において」、*in diesen 13 Jahren*「この 13 年において」。

また、次の聴衆への呼びかけ方が第 1 期に典型的である：*Meine lieben Freunde*「私の親愛なる友人たち」、*Mein lieber Freund*「私の親愛なる友人」（*mein lieber Freund*）、*meine deutschen Volksgenossen*「私のドイツ民族同胞」、*meine lieben deutschen Volksgenossen*「私のドイツ民族同胞たち」。その他に第 1 期に特徴的な語連鎖として、政治権力を指す表現（*die politische Macht*「政治権力が／を」、*der politischen Macht*「政治権力の／に」、*die politische Kraft*「政治権力」）、「土壌」に関わる表現（*Grund und Boden*「土地と土壌」、*der Grund und Boden*「土地と土壌が」、*den Grund und Boden*「土地と土壌を」、*auf dem Boden*「土壌の上に」）、ドイツ国民の総数を表現したもの（*64 Millionen Menschen*「6 千 4 百万人の人間」、*Millionen von Deutschen*

「何千万人ものドイツ人」、*Millionen von Menschen*「何千万人もの人間」)がある。2つの概念を対比させた表現も目立つ：*diese beiden Begriffe*「このふたつの概念」、*Nationalismus und Sozialismus*「国民主義と社会主義」、*Sozialismus und Nationalismus*「社会主義と国民主義」。 *das alte Deutschland*「古いドイツ」、*die alten Parteien*「古い党」、*eine neue Bewegung*「新しい運動」も、新旧の対比を前提としている。さらには、*Glauben Sie mir*「私を信じて下さい」、*Glauben Sie nicht, daß*「～ということ信じないで下さい」と *müssen wir sagen*「われわれは言わねばなりません」、*ich kann nicht sagen*「私は言うことができません」という *glauben*「信じる」と *sagen*「言う」に関わる、主観的な意味の語連鎖も特徴的である。

第2期に特徴的なのはまず、新生ナチスドイツを表す表現である：*das nationalsozialistische Deutschland*、「国民社会主義のドイツ」、*der nationalsozialistische Staat*「国民社会主義の国家が」、*des nationalsozialistischen Staates*「国民社会主義の国家の」、*Das Deutsche Reich*「ドイツ帝国が／を」(*das Deutsche Reich*)、*des Deutschen Reiches*「ドイツ帝国の」、*die deutsche Reichsregierung*「ドイツ帝国政府」。ナチスドイツではない国々を指す表現である *die übrige Welt*「残りの世界」、*in anderen Ländern*「他の国々で」も、第2期に特徴的である。時間表現としては現在(および未来)を表すものが目立つ：*in diesem Augenblick*「この瞬間に」、*in dieser Stunde*「この時間に」、*am heutigen Tage*「今日この日に」、*in diesem Jahr*「今年に」、*von jetzt ab*「今からは」、*in der Zukunft*「未来に」。2つの語が *und* で連結されているものは、対立的というよりも総称的ないし類似的な意味となっている：*Volk und Reich*「民族と帝国」、*Frau und Kinder*「女性と子供たち」、*Männer und Frauen*「男と女」、*in Stadt und Land*「町と国で」、*in Frieden und Freundschaft*「平和と友好において」。あとさらには、「確信」を表す表現も顕著である：*Ich bin der Überzeugung (, daß)*「私は(～ということを)確信しています」、*ich bin der Überzeugung*「私は確信しています」、*können Sie überzeugt sein*「あなた方は確信することができます」。

12. まとめ

第1期と第2期とを比較して、レンマを品詞の区別なく対数尤度比（LLR）の高い順に上位30位まで並べたものが表34である。この一覧表を示しながら、ヒトラー演説における語彙・表現に関わる変遷を簡潔にまとめておこう。

表34：第1期と第2期の特徴語（上位30位まで）

Phase 1 p < 0.0001					Phase 2 p < 0.0001				
Lemma	LLR	F: Ph	F: Ph	RFF	Lemma	LLR	F: Ph 1	F: Ph 2	RFF
man	1157.94	5845	2165	2.25	1 nationalsozialistisch	421.57	304	896	3.53
du	805.34	1597	277	5.88	2 ich	406.89	7724	8829	1.37
sagen	644.78	3431	1305	2.20	3 dieser	330.79	10022	10773	1.29
wenn	599.40	6519	3260	1.67	4 auch	318.78	4483	5368	1.43
Mensch	547.04	3205	1276	2.10	5 Wehrmacht	304.08	14	252	21.55
nicht	439.18	12645	7837	1.35	6 britisch	298.22	14	248	21.21
gehen	376.93	1853	677	2.29	7 Soldat	288.72	157	532	4.06
Bewegung	376.85	1869	686	2.28	8 mein	258.11	1278	1896	1.78
Partei	353.97	1599	558	2.39	9 Europa	249.26	147	478	3.89
Boden	311.70	640	116	4.61	10 Vorsehung	239.88	25	238	11.40
heute	297.75	3390	1718	1.65	11 Frau	228.22	63	312	5.92
Stresemann	281.24	241	1	201.30	12 Krieg	224.43	579	1033	2.14
da	277.33	1490	566	2.19	13 Churchill	222.00	0	141	+
Majorität	253.45	225	2	93.96	14 Roosevelt	220.43	0	140	+
daß	242.36	11515	7656	1.26	15 europäisch	219.48	53	285	6.44
System	236.27	362	40	7.56	16 jener	216.27	396	793	2.40
langsam	234.27	552	117	3.94	17 deutsch	209.82	4647	5198	1.34
Republik	231.66	260	13	16.70	18 Frieden	208.89	181	490	3.24
bayerisch	227.21	260	14	15.51	19 kulturell	204.40	40	246	7.36
Volkspartei	220.05	219	6	30.48	20 Reich	197.74	615	1036	2.02
müssen	216.77	4298	2490	1.41	21 Aufgabe	196.27	297	638	2.57
Begriff	205.78	490	105	3.90	22 Polen	195.67	39	237	7.28
Marxismus	201.53	368	57	5.40	23 Land	183.07	335	671	2.40
kommen	195.72	2376	1226	1.62	24 Gemeinschaft	175.13	114	353	3.71
Jude	186.63	430	89	4.04	25 Umstand	173.80	33	207	7.51
Kraft	183.63	1457	641	1.90	26 geschichtlich	168.05	67	268	4.79
Bürgertum	181.60	295	38	6.48	27 Luftwaffe	163.67	0	104	+
bürgerlich	160.68	487	130	3.13	28 polnisch	163.41	10	143	17.12
Idee	150.48	551	169	2.72	29 Führung	161.67	239	518	2.56
Nationalismus	149.18	185	13	11.89	30 Ausmaß	149.11	7	124	21.21

表34を見ればわかるように、第1期と第2期との最も顕著な相違は、代名詞に関わる。第1期では誰を指すのかが不定な代名詞 *man* (= 1-1)⁶²⁾ を愛用したヒトラーは、政権掌握に向けて、自分が主体であることを明示する *ich* (= 2-2) を使用するように明確に傾斜していく。聴衆がナチ党员およびそのシンパであることが多かった政権掌握前には、聴衆を *du* で呼ぶことが多かった。次に重要な相違は、仮定の *wenn* (= 1-4) である。政権掌握を目指した選挙戦で、ヒトラーは「もし～ならば、そのときは～であろう」と、仮定を前提としたアピール内容を聴衆に投げかけたが、政権掌握後は仮定の話をするのは控える。第1期に「～であらねばならない」(*müssen* = 1-21) という言い方でワイマール共和国と敵対陣営をあ

62) 1-1 とは、表34において第1期 (Phase 1) の第1位の特徴語であるという表示である。以下同様。

げつらってナチ運動を展開したときに必須であった語彙（*System* [= 1-16] 「（ワイマール）体制」、*Republik* [= 1-18] 「共和国」、*Volkspartei* [= 1-20] 「人民党」、*Marxismus* [= 1-23] 「マルクス主義」、*Jude* [= 1-25] 「ユダヤ人」、*Bürgertum* [= 1-27] 「ブルジョア」、*bürgerlich* [= 1-28] 「ブルジョアの」、*Bewegung* [= 1-8] 「運動」と「理念」（*Idee* [= 1-29] ）・「概念」（*Begriff* [= 1-22] ）は、政権掌握を果たしたヒトラーには不要なものとなった。政権掌握後は、ヒトラーの思考のなかでは神の「摂理」（*Vorsehung* [= 2-10]）が最上の行動原理となる。「国民社会主義的」（*nationalsozialistisch* [= 2-1]）考え方に基づく「共同体」（*Gemeinschaft* [= 2-24]）のなかで、一方では国家的行事に際しては書きことば性の高いことばを語り、他方では「文化的」（*kulturell* [= 2-19]）な催しを行い、「平和」（*Frieden* [= 2-18]）プロパガンダを推進していた。そのヒトラーが 1939 年 9 月 1 日にポーランドへ侵攻して以降その最期にいたるまで、ヒトラー演説の語彙は、「戦争」（*Krieg* [= 2-12]）、「防衛軍」（*Wehrmacht* [= 2-5]）、「空軍」（*Luftwaffe* [= 2-27]）、「兵士」（*Soldat* [= 2-7]）、「ポーランドの」（*polnisch* [= 2-28]）、「イギリスの」（*britisch* [= 2-6]）、「チャーチル」（*Churchill* [= 2-13]）、「ルーズベルト」（*Roosevelt* [= 2-14]）のように、もっぱら戦争関連のものに染め上げられるほかなかったのである。

演説コーパス内訳

年月日の後のかっこ内にある略号は、その演説が収録されている 1 次資料を表す。上記の 1 次資料一覧の各文献最後のかっこ内に略記が書かれている。

第 1 期前半（1920 年 8 月 7 日～1930 年 3 月 18 日）：109 演説

1920-8-7(JÄ),	1920-8-13(JÄ),	1921-7-29(JÄ),	1921-10-26(JÄ),	1921-11-9(JÄ),
1922-4-12(JÄ),	1922-7-28(JÄ),	1922-9-18(BP),	1923-4-10(BP),	1923-4-13(BP),
1923-4-17(BP),	1923-4-20(BP),	1923-4-24(BP),	1923-4-27(BP),	1923-5-1(BP),
1923-5-4(BP),	1923-8-1(BP),	1923-8-21(BP),	1923-9-5(BP),	1923-9-12(BP),
1925-2-27(KL),	1925-3-2(HR),	1925-3-5(HR),	1925-3-22a(HR),	1925-3-22b(HR),
1925-4-25(HR),	1925-6-12(HR),	1925-7-8(HR),	1925-7-15(HR),	1925-8-15(HR),

1925-9-26(HR),	1925-10-8(HR),	1925-10-28(HR),	1925-11-4(HR),	1925-11-21(HR),
1925-12-12(HR),	1925-12-16(HR),	1926-2-14(HR),	1926-2-28(HR),	1926-3-23(HR),
1926-5-9(HR),	1926-5-22(HR),	1926-7-4(HR),	1926-8-21(HR),	1926-11-26(HR),
1926-12-8(HR),	1926-12-19(HR),	1927-1-18(HR),	1927-3-6(HR),	1927-3-23(HR),
1927-3-26(HR),	1927-3-30(HR),	1927-4-2(HR),	1927-4-13(HR),	1927-5-1(HR),
1927-5-12(HR),	1927-5-24(HR),	1927-6-3(HR),	1927-6-9(HR),	1927-6-17(HR),
1927-6-26(HR),	1927-7-30(HR),	1927-8-6(HR),	1927-10-6(HR),	1927-11-9(HR),
1927-11-16(HR),	1927-12-2(HR),	1927-12-10(HR),	1928-1-18(HR),	1928-2-24(HR),
1928-2-29(HR),	1928-3-3(HR),	1928-3-21(HR),	1928-4-14(HR),	1928-4-17(HR),
1928-5-2(HR),	1928-5-14(HR),	1928-5-20(HR),	1928-5-23(HR),	1928-6-6(HR),
1928-7-13(HR),	1928-9-2(HR),	1928-9-18(HR),	1928-9-21(HR),	1928-10-10(HR),
1928-10-18(HR),	1928-10-27(HR),	1928-10-29(HR),	1928-11-9(HR),	1928-11-16(HR),
1928-11-20(HR),	1928-11-30(HR),	1928-12-3(HR),	1928-12-7(HR),	1928-12-11(HR),
1929-1-26(HR),	1929-2-18(HR),	1929-2-24(HR),	1929-3-6(HR),	1929-4-3(HR),
1929-4-17(HR),	1929-4-25(HR),	1929-7-9(HR),	1929-8-4a(HR),	1929-8-4b(HR),
1929-11-6(HR),	1929-12-3(HR),	1930-2-24(HR),	1930-3-18(HR).	

第1期後半（1930年5月9日～1933年1月22日）：159 演説

1930-5-9(HR),	1930-5-23(HR),	1930-6-1(HR),	1930-7-12(HR),	1930-7-24(HR),
1930-8-3(HR),	1930-8-10(HR),	1930-8-12(HR),	1930-8-18(HR),	1930-8-26(HR),
1930-8-29(HR),	1930-9-7(HR),	1930-9-10(HR),	1930-9-13(HR),	1930-9-15(HR).
1930-9-16(HR),	1930-10-12(HR),	1930-10-13(HR),	1930-10-19(HR),	1930-10-25a(HR),
1930-10-25b(HR),	1930-10-26(HR),	1930-11-2a(HR),	1930-11-2b(HR),	1930-11-5(HR),
1930-11-8(HR),	1930-11-13(HR),	1930-11-16(HR),	1930-11-23(HR),	1930-12-1(HR),
1930-12-5(HR),	1930-12-7(HR),	1930-12-11(HR),	1931-1-18(HR),	1931-2-8(HR),
1931-2-22(HR),	1931-4-7(HR),	1931-4-9(HR),	1931-4-12a(HR),	1931-4-12b(HR),
1931-4-16(HR),	1931-4-19(HR),	1931-4-24(HR),	1931-5-2(HR),	1931-5-6(HR),
1931-5-9(HR),	1931-5-10(HR),	1931-5-12(HR),	1931-5-19(HR),	1931-5-31(HR),
1931-6-25(HR),	1931-7-3(HR),	1931-9-4(HR),	1931-9-6(HR),	1931-9-9(HR),
1931-9-24(HR)	1931-10-11a(HR),	1931-10-11b(HR),	1931-10-18(HR),	1931-11-13(HR),

1931-11-15(HR),	1932-1-17(HR),	1932-1-23(HR),	1932-1-26(HR),	1932-2-9(HR),
1932-2-10(HR),	1932-2-16(HR),	1932-2-27(HR),	1932-3-1(HR),	1932-3-3(HR),
1932-3-5(HR),	1932-3-6a(HR),	1932-3-6b(HR),	1932-3-7(HR),	1932-3-8(HR),
1932-3-10(HR),	1932-3-11(HR),	1932-3-15(HR),	1932-3-19(HR),	1932-4-3(HR),
1932-4-4a(HR),	1932-4-4b(HR),	1932-4-5(HR),	1932-4-6(HR),	1932-4-8(HR),
1932-4-9(HR),	1932-4-16(HR),	1932-4-17(HR),	1932-4-18(HR),	1932-4-19(HR),
1932-4-20(HR),	1932-4-21(HR),	1932-4-22(HR),	1932-4-23(HR),	1932-5-20(HR),
1932-5-22(HR),	1932-5-23(HR),	1932-5-24(HR),	1932-5-25(HR),	1932-5-27(HR),
1932-5-29(HR),	1932-5-31(HR),	1932-6-2(HR),	1932-6-14(HR),	1932-6-15(HR),
1932-6-17(HR),	1932-6-19(HR),	1932-7-3(HR),	1932-7-15(HR),	1932-7-16(HR),
1932-7-17(HR),	1932-7-19a(HR),	1932-7-19b(HR),	1932-7-20a(HR),	1932-7-20b(HR),
1932-7-21(HR),	1932-7-22(HR),	1932-7-23(HR),	1932-7-26(HR),	1932-7-27(HR),
1932-7-29(HR),	1932-7-30(HR),	1932-9-4(HR),	1932-9-7(HR),	1932-10-1a(HR),
1932-10-1b(HR),	1932-10-11(HR),	1932-10-13(HR),	1932-10-16(HR),	1932-10-17(HR),
1932-10-18(HR),	1932-10-19(HR),	1932-10-22(HR),	1932-10-23(HR),	1932-10-24(HR),
1932-10-26(HR),	1932-10-28(PL),	1932-10-29(HR),	1932-10-30a(HR),	1932-10-30b(PL),
1932-11-2(HR),	1932-11-3(HR),	1932-11-4(HR),	1932-11-5(HR),	1932-11-26(HR),
1932-12-1(HR),	1932-12-2(HR),	1932-12-10(HR),	1932-12-11(HR),	1932-12-18(HR),
1933-1-3(HR),	1933-1-4(HR),	1933-1-5(HR),	1933-1-6(HR),	1933-1-8(HR),
1933-1-12(HR),	1933-1-15(HR),	1933-1-20(HR),	1933-1-22(HR),	

第2期前半（1933年2月1日～1939年8月22日）：238演説

1933-2-1(DM),	1933-2-2(DM),	1933-2-10(DM),	1933-2-11(DM),	1933-2-15(DM)
1933-2-24(DM),	1933-3-12a(DM),	1933-3-12b(DM),	1933-3-21(JD),	1933-3-23a(DM)
1933-3-23b(JD),	1933-4-5(JD),	1933-4-6(DM),	1933-4-8(DM),	1933-5-1(JD)
1933-5-7(DM),	1933-5-10(JD),	1933-5-17(DM),	1933-7-6(JD),	1933-7-9(DM)
1933-8-27a(DM),	1933-8-27b(DM),	1933-9-1(PT33),	1933-9-3(PT33),	1933-9-13(DM)
1933-9-20(DM),	1933-9-23(DM),	1933-10-1(DM),	1933-10-14(GF),	1933-10-15(DM)
1933-10-22(GF),	1933-11-8(DM),	1933-11-9(GF),	1933-11-10(GF),	1933-11-12a(GF)
1933-11-12b(GF),	1933-11-27(DM),	1934-1-1(DM),	1934-1-30(DM),	1934-2-24(DM)

1934-3-6(DM),	1934-3-7(DM),	1934-5-1a(DM),	1934-5-1b(DM),	1934-6-17(DM)
1934-7-13(KL),	1934-8-6(DM),	1934-8-7(DM),	1934-8-17a(DM),	1934-8-17b(DM)
1934-8-2(DM),	1934-9-5a(OPT34),	1934-9-5b(DM),	1934-9-6(DM),	1934-9-7(OPT34)
1934-9-8a(OPT34),	1934-9-8b(OPT34),	1934-9-9(OPT34),	1934-9-10(DM),	1934-9-12(DM)
1934-10-9(DM),	1934-11-8(DM),	1934-11-9(DM),	1934-11-14(DM),	1935-1-1(DM)
1935-1-15(DM),	1935-2-7(DM),	1935-2-24(DM),	1935-3-1(DM),	1935-5-1(DM)
1935-5-21(RT35),	1935-8-11(DM),	1935-9-8(DM),	1935-9-10a(OPT35),	1935-9-10b(PTF)
1935-9-11a(OPT35),	1935-9-11b(OPT35),	1935-9-12a(PTF),	1935-9-12b(PTF),	1935-9-13a(PTF),
1935-9-13b(PTF),	1935-9-13c(OPT35),	1935-9-14(OPT35),	1935-9-15a(OPT35),	1935-9-15b(OPT35),
1935-9-15c(OPT35),	1935-9-16(OPT35),	1935-10-6(DM),	1935-10-8(DM),	1935-10-26(DM),
1935-11-8(DM),	1936-1-1(DM),	1936-1-10(DM),	1936-1-15(DM),	1936-1-30(DM)
1936-2-12(DM),	1936-2-15(DM),	1936-2-24(DM),	1936-3-7(WF),	1936-3-12(WF)
1936-3-14(WF),	1936-3-16(WF),	1936-3-18(WF),	1936-3-20(WF),	1936-3-22(WF)
1936-3-24(WF),	1936-3-25(WF),	1936-3-27(WF),	1936-3-28a(WF),	1936-3-28b(DM)
1936-4-20(DM),	1936-5-1a(DM),	1936-5-1b(DM),	1936-7-3(DM),	1936-8-1(DM)
1936-9-8(OPT36),	1936-9-9a(OPT36),	1936-9-9a(OPT36),	1936-9-10(OPT36),	1936-9-11a(OPT36)
1936-9-11b(OPT36),	1936-9-12(OPT36),	1936-9-13(OPT36),	1936-9-14a(OPT36),	1936-9-14b(OPT36)
1936-9-14c(PTE),	1936-9-17(DM),	1936-10-4(DM),	1936-10-6(DM),	1936-10-30(DM)
1936-11-8(DM),	1937-1-11(DM),	1937-1-30(RT37),	1937-2-20(DM),	1937-2-24(KK),
1937-4-29(KK),	1937-5-1a(DM),	1937-5-1b(DM),	1937-5-11(DM),	1937-5-20(KK);
1937-6-6(DM),	1937-6-16(DM),	1937-6-23(DM),	1937-6-27(DM),	1937-7-18a(EM),
1937-7-18b(EM),	1937-7-31(DM),	1937-9-6(PTA),	1937-9-7a(OPT37),	1937-9-7b(PTA)
1937-9-8(OPT37),	1937-9-9(OPT37),	1937-9-10a(OPT37),	1937-9-10b(PTA),	1937-9-10c(OPT37)
1937-9-10d(OPT37),	1937-9-11a(OPT37),	1937-9-11b(OPT37),	1937-9-12(PTA),	1937-9-13a(OPT37),
1937-9-13b(OPT37),	1937-9-27(DM),	1937-9-28(DM),	1937-10-3(DM),	1937-10-5(WH37/38),
1937-10-15(DM),	1937-11-5(DM),	1937-11-6(DM),	1937-11-21(DM),	1937-11-23(DM)
1937-11-27(DM),	1938-1-11(DM),	1938-1-22(DM),	1938-2-18(DM),	1938-2-20(RT38)
1938-3-15(DM),	1938-3-18(KL),	1938-3-25(DM),	1938-3-29(DM),	1938-3-31(DM)
1938-4-3(DM),	1938-4-6(DM),	1938-4-7(DM),	1938-4-9(DM),	1938-5-1a(DM),
1938-5-1b(DM),	1938-5-4a(DM),	1938-5-4b(DM),	1938-5-7(DM),	1938-5-22(DM)

1938-5-26(DM), 1938-6-12(DM), 1938-6-14(DM), 1938-7-10(EM), 1938-8-24(DM)
 1938-9-5(PTG), 1938-9-6a(OPT38), 1938-9-6b(PTG), 1938-9-7(PTG), 1938-9-10a(OPT38),
 1938-9-10b(OPT38), 1938-9-10c(OPT38), 1938-9-11(OPT38), 1938-9-12(OPT38), 1938-9-26(KL)
 1938-10-3(DM), 1938-10-4(DM), 1938-10-5(WH37/38), 1938-10-9(DM), 1938-10-20(DM)
 1938-11-6(DM), 1938-11-8(KK), 1938-11-10(KK), 1938-11-21(DM), 1938-11-22(DM)
 1938-12-2(DM), 1938-12-10(EM), 1938-12-15(DM), 1938-12-16(DM), 1938-12-31(DM)
 1939-1-9(DM), 1939-1-12(DM), 1939-1-30(DB), 1939-2-14(DM), 1939-2-17(DM),
 1939-2-24(DM), 1939-3-23(DM), 1939-4-1(DM), 1939-4-28(RT39), 1939-5-1a(DM)
 1939-5-1b(DM), 1939-6-1(DM), 1939-6-4(DM), 1939-6-6(DM), 1939-6-25(DM)
 1939-7-16(EM), 1939-8-14(DM), 1939-8-22(DM).

第2期後半（1939年9月1日～1945年1月30日）：52 演説

1939-9-1(FK), 1939-9-19(FK), 1939-10-6(FK), 1939-10-10(FK), 1939-11-8(FK)
 1939-11-23(DM), 1939-12-31(FK), 1940-1-24(DM), 1940-1-30(FK), 1940-2-24(FK)
 1940-3-10(FK), 1940-5-3(DM), 1940-7-19(FK), 1940-9-4(FK), 1940-10-15(FK)
 1940-11-8(FK), 1940-11-14(FK), 1940-12-10(FK), 1940-12-18(DM), 1940-12-31(FK),
 1941-1-20(DM), 1941-1-30(FK), 1941-2-24(FK), 1941-3-16(FK), 1941-4-29(DM)
 1941-5-4(FK), 1941-10-3(FK), 1941-11-8(FK), 1941-12-1(FK), 1941-12-31(FK)
 1942-1-30(FK), 1942-2-12(FK), 1942-2-15(KK), 1942-3-15(FK), 1942-4-26(DM)
 1942-9-30(WH42/43), 1942-11-8(DM), 1942-12-31(DM), 1943-3-21(DM), 1943-5-7(DM)
 1943-9-10(DM), 1943-11-8(DM), 1943-12-31(DM), 1944-1-30(DM), 1944-7-1(DM),
 1944-7-4(DM), 1944-7-20(DM), 1944-8-4(DM), 1944-12-12(DM), 1944-12-28(DM)
 1944-12-31(DM), 1945-1-30(DM).

参考文献

- Beck, Hans-Rainer (2001): *Politische Rede als Interaktionsgefüge: Der Fall Hitler*. Tübingen: Niemeyer.
- Bopp, Sebastian (2010): *Neue Wege in der Politolinguistik. Eine korpuslinguistische Analyse der Plenardebatten des Deutschen Bundestages in der 16. Wahlperiode*

- (2005-2008). Magisterarbeit. Universität Augsburg.
- Bork, Siegfried (1970): *Mißbrauch der Sprache*. München: Fink.
- Bubenhof, Noah (2009): Sprachgebrauchsmuster. Korpuslinguistik als Methode der Diskurs- und Kulturanalyse. Berlin/New York: de Gruyter.
- Bubenhof, Noah/Joachim Scharloth (im Druck): Datengeleitete Korpuspragmatik: Korpusvergleich als Methode der Stilanalyse. In: Ekkehard Felder/Marcus Müller/Friedemann Vogel (Hrsg.): *Korpuspragmatik. Thematische Korpora als Basis diskurslinguistischer Analysen von Texten und Gesprächen*. Berlin, New York: de Gruyter.
- Bucher, Rainer (2005): Hitlers Theologie. Die Verkündigung einer Erwählung. In: Lucia Scherzberg (Hrsg.): *Theologie und Vergangenheitsbewältigung*. Paderborn et al.: Schöningh, 71-85.
- Ebling, Sarah/Joachim Scharloth/Tobias Dussa/Noah Bubenhof (im Druck) : Gibt es eine Sprache des politischen Extremismus? In: Frank Liedtke (Hrsg.): *Die da oben...: Politik und Partizipation im Wahljahr 2009*.
- H.フォッケ/U.ライマー (山本尤訳) (1984) 『ヒトラー政権下の日常生活—ナチスは市民をどう変えたか』 社会思想社。
- Grünert, Horst (1984): Deutsche Sprachgeschichte und politische Geschichte in ihrer Verflechtung. In: Werner Besch/Anne Betten/Oskar Reichmann/Stefan Sonderegger (Hrsg.): *Sprachgeschichte. Ein Handbuch zur Geschichte der deutschen Sprache und ihrer Erforschung*. 1. Halbband. Berlin/New York: de Gruyter, 29-37.
- 平井正 (1995) 『20 世紀の権力とメディア ナチ・統制・プロパガンダ』 雄山閣出版。
- 石井慎一郎 (2008) 『英語コーパスと言語教育 —データとしてのテキスト』 大修館書店。
- Kopperschmidt, Josef (2003): War Hitler ein großer Redner? Ein redekritischer Versuch. In: Josef Kopperschmidt (Hrsg.): *Hitler der Redner*. München: Fink Verlag, 181-204.,
- H. マウ/H. クラウスニク (内山敏 訳) (1961) 『ナチスの時代 —ドイツ現代史—』 岩波書店。

Schmitz-Berning, Cornelia (1998): *Vokabular des Nationalsozialismus*. Berlin/ New York: de Gruyter.

高田博行 (2006) 「ヒトラーの語りの手法 —ナチ党集会での演説 (1925 年 12 月 12 日) を例にして—」『学習院大学ドイツ文学会研究論集』、87-118 頁。

高田博行 (2008) 「選挙キャンペーン映画におけるヒトラー演説 —対比と相似のレトリック」、『ドイツ文学』(日本独文学会編) 136 号、113-130 頁。

山本秀行(1995) 『ナチズムの記憶—日常生活からみた第三帝国』山川出版社。

1 次資料

A. 同時代の出版物 (出版年順)

ヒトラー、アドルフ (1973) 『わが闘争(上)(下)』 平野一郎・将積茂訳 角川書店。 [原書: 1925 年、1926 年]

Boepple, Ernst (Hrsg.): *Adolf Hitlers Reden*. Mit seinem Bild von Otto v. Kursell. München: Deutscher Volksverlag. 1925. [= BP]

Die Reden Hitlers als Kanzler. Das junge Deutschland will Arbeit und Frieden. München: Verlag Frz. Eher Nachf. 1934. [= JD]

Die Reden Hitlers für Gleichberechtigung und Frieden. München: Zentralverlag der N.S.D.A.P. Frz. Eher Nachf. 1934. [= GF]

Der Kongreß zu Nürnberg vom 5. bis 10. September 1934. Offizieller Bericht über den Verlauf des Reichsparteitages mit sämtlichen Kongreßreden. 2. Aufl. München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1935. [= OPT34]

Rede des Führers und Reichskanzlers Adolf Hitler vor dem Reichstag am 21. Mai 1935. In: *Verhandlungen des Reichstags IX. Wahlperiode 1933*. Band 458. Stenographische Berichte. Anlagen zu den Stenographischen Berichten. Berlin 1936. [= RT33]

Der Parteitag der Freiheit vom 10. bis 16. September 1935. Offizieller Bericht über den Verlauf des Reichsparteitages mit sämtlichen Kongreßreden. München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1935. [= OPT35]

Die Reden Hitlers am Parteitag der Freiheit 1935. München: Zentralverlag der N.S.D.A.P. Frz. Eher Nachf. 1935. [= PTF]

Reden des Führers am Parteitag der Ehre 1936. Historische Reichstagsrede vom 7. März

- 1936. Rede am Bückberg. Rede zum Winterhilfswerk.* München/Berlin: Zentralverlag der NSDAP. Franz Eher Nachf. 1936. [= PTE]
- Der Parteitag der Ehre vom 8. bis 14. September 1936. Offizieller Bericht über den Verlauf des Reichsparteitages mit sämtlichen Kongreßreden.* München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1936. [= OPT36]
- Des Führers Kampf um den Weltfrieden.* München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf., 1936. [= WF]
- Reden des Führers und Reichskanzlers Adolf Hitler vor dem Reichstag am 30. Januar 1937.* Berlin: M. Müller & Sohn K. G. [= RT37]
- Reden des Führers am Parteitag der Arbeit 1937.* München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1937. [= PTA]
- Der Parteitag der Arbeit vom 6. bis 13. September 1937. Offizieller Bericht über den Verlauf des Reichsparteitages mit sämtlichen Kongreßreden.* München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1938. [= OPT37]
- Führer-Reden zum Winterhilfswerk 1937 und 1938.* Berlin: Zentralverlag der NSDAP. Franz Eher Nachf. GmbH. [=WH37/38]
- Führerbotschaft an Volk und Welt. Reichstagsrede vom 20. Februar 1938.* München Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1938. [= RT38]
- Reden des Führers am Parteitag Großdeutschland 1938.* München Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1938. [= PTG]
- Der Parteitag Großdeutschland vom 5. bis 12. September 1938. Offizieller Bericht über den Verlauf des Reichsparteitages mit sämtlichen Kongreßreden.* München: Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1938. [= OPT38]
- Der Führer antwortet Roosevelt. Reichstagsrede vom 28. April 1939.* München 1939. [= RT39]
- Der großdeutsche Freiheitskampf. Reden Adolf Hitlers.* [= FK]
- I. Band vom 1. September 1939 bis 10. März 1940, II. Band vom 10. März bis 16. März 1941. [I und II in einem Band] München: : Zentralverlag der NSDAP., Franz Eher Nachf. 1943.
- III. Band. vom 16. März 1941 bis 15. März 1942. München: Zentralverlag der

NSDAP., Franz Eher Nachf. 1942.

Rede Adolf Hitlers zur Eröffnung des Kriegeswinterhilfswerks 1942/43 im Berliner Sportpalast am 30. September 1942. Berlin: Wilhelm Greve. [= WH42/43]

B. 後世に編集されたもの

Domarus, Max: *Reden und Proklamationen 1932-1945.* Kommentiert von einem deutschen Zeitgenossen. 4 Bde. München: Süddeutscher Verlag 1965. [= DM]

Dube, Christan: *Religiöse Sprache in Reden Adolf Hitlers. Analysiert an Hand ausgewählter Reden aus den Jahren 1933-1945.* Kiel 2004. [= DB]

Eikmeyer, Robert (Hrsg.): *Adolf Hitler. Reden zur Kunst- und Kulturpolitik 1933-1939.* Frankfurt am Main: Revolver 2004. [= EM]

Hitler. Reden, Schriften, Anordnungen, Februar 1925 bis Januar 1933. Herausgegeben vom Institut für Zeitgeschichte. 5 Bde. München: K. G. Saur 1992- 1998. [= HR]

Jäckel, Eberhard (zusammen mit Axel Kuhn): *Hitler. Sämtliche Aufzeichnungen 1905-1924.* Stuttgart: Deutsche Verlags-Anstalt 1980. [= JÄ]

Kotze, Hildegart von/ Krausnick, Helmut (Hrsg.): *»Es spricht der Führer« 7 exemplarische Hitler-Reden.* Gütersloh: Sigbert Mohn 1966. [= KK]

Klöss, Erhard: *Reden des Führers. Politik und Propaganda Adolf Hitlers 1922-1945.* München: Deutscher Taschenbuchverlag 1967. [= KL]

Plöckinger, Othmar: *Reden um die Macht? Wirkung und Strategie der Reden Adolf Hitlers im Wahlkampf zu den Reichstagswahlen am 6. November 1932.* Wien: Passagen Verlag 1999. [= PL]

(ただ・ひろゆき 学習院大学文学部教授)

Hitlerreden auf der Zeitachse

Korpuslinguistische Analyse der Eigenschaften ihrer Lexik

HIROYUKI TAKADA

Es ist in der einschlägigen Literatur unumstritten, daß die Reden von Hitler einen grundlegenden Anteil an seinem Erfolg in Partei und Politik hatten. Ausgehend von der Auffassung, daß signifikant häufiger auftretende sprachliche Muster (bestimmte Lexeme oder Lexemverbindungen) als Ausdruck der außersprachlichen gesellschaftlichen Organisation bzw. als Ausdruck rekurrenter Sprachhandlungen des Autors gedeutet werden können (vgl. Bubenhofer/Scharloth [im Druck]), untersucht die vorliegende Arbeit mit korpuslinguistischen Methoden („semtracks semantic matrix engine“) insgesamt 558 Hitlerreden mit ca. 1.500.000 Wörtern auf ihre lexikalischen Muster hin und versucht, auf diese Weise die Eigenschaften der Reden vor und nach der Machtergreifung herauszufinden. Zur präziseren Erfassung der Veränderungen wurden die beiden Zeitphasen jeweils in zwei weitere Teilphasen unterteilt: Phase 1 – aufgrund der Ernennung von Goebbels zum Reichspropagandaleiter der NSDAP im April 1930 – in die Teilphasen 1a und 1b, Phase 2 – aufgrund der Kriegseröffnung im September 1939 – in die Teilphasen 2a und 2b.

Nach den Berechnungen von für die jeweiligen Zeitphasen typischen Lexemen und Lexemverbindungen mittels der Log-Likelihood-Ratio (LLR) und t-Score läßt sich Folgendes feststellen: Der größte Unterschied zwischen den Reden vor und nach der Machtergreifung, also zwischen Phase 1 und Phase 2, betrifft den Gebrauch der Pronomen *man*, *ich* und *du*. Statt des Pronomens *man*, das Hitler in Phase 1 im Vergleich mit Phase 2 sehr viel häufiger gebraucht (LLR: 1157,94), wird in Phase 2 das Personalpronomen *ich* signifikant häufiger benutzt (LLR: 406,89); dies ließe sich als Indikator dafür interpretieren, daß Hitler nun in Phase 2 die Indefinitheit bzw. die (scheinbare) Objektivität von *man* zugunsten der Definitheit bzw. der unabhängigen Subjektivität von *ich* weitgehend vermeidet. Den ebenso außerordentlich häufigeren Gebrauch von *du* in Phase

1 kann mit Parteigenossen und Nazi-Sympathisanten als überwiegender Zuhörerschaft in Zusammenhang gebracht werden. Den zweitauffälligsten Kontrast stellt die Verwendung der konditionalen Konjunktion *wenn* dar. In den Wahlkämpfen vor der Machtergreifung spricht Hitler in Phase 1 signifikant häufiger von *wenn* (LLR: 599,40), um den Zuhörern in appellativer Weise (oft fiktive) Sachinhalte vor Augen zu führen, die gewisse andere Sachverhalte voraussetzen (*Wenn wir von Treue reden, die uns verlorenging, dann soll man nicht auf Treue hoffen, wenn wir selbst sie preisgeben*; Rede vom 02.11.1932). Typisch für Phase 1 ist auch der Gebrauch des Modalverbs *müssen* (LLR: 216,77), mit dem Hitler die zwingende Notwendigkeit seiner jeweiligen Behauptungen signalisiert. Eine Reihe von Lemmata, die Hitler in seiner NS-Bewegung in Phase 1 zur Bezeichnung der zu verleumdenden Referenten braucht, wie z. B. *Weimarer System* (LLR: 236,27), *Republik* (LLR: 231,66), *Volkspartei* (220,05), *Marxismus* (LLR: 201,55), *Jude* (LLR: 186,63), *Bürgertum* (LLR: 181,60) und *bürgerlich* (LLR: 160,68), verlieren in Phase 2 – einschließlich der Lexeme *Bewegung* (LLR: 376,85), *Idee* (LLR: 150,48) und *Begriff* (LLR: 205,78) – ihre früheren Stellungen in den Hitlerreden.

Nach der Machtergreifung gilt sowohl bei Triumphen als auch Niederlagen die göttliche *Vorsehung* (LLR: 239,88) jenseits des Menschenwerks als oberste Legitimationskategorie für Hitlers Projekte. Unter den Adjektiven in Phase 2 hat das Lemma *nationalsozialistisch* (LLR: 421,57) zusammen mit *deutsch* (LLR: 209,82), *kulturell* (LLR: 204,40) und *geschichtlich* (LLR: 168,05) eine zentrale Bedeutung. Bei staatlichen und öffentlichen Veranstaltungen einschließlich der Kunstaussstellungen im Rahmen der Friedenspropaganda in Phase 2a (*Ausstellung* und *Frieden* gehören auch zu den typischen Lexemen in diesem Zeitabschnitt), also in der Zeit zwischen der Machtergreifung und der Kriegseröffnung, mußte Hitler in seinen Reden als „Führer“ mehr oder weniger mit Wendungen offiziellen Charakters sprechen. Die Substantive *Ausdruck* (LLR: 57,54), *Bekenntnis* (LLR: 53,76), *Verständnis* (LLR: 36,60) und *Aufgabe* (LLR: 39,87) als signifikant häufigere Lemmata in Phase 2a im Vergleich mit Phase 2b stehen – nach der Berechnung der t-Score – dementsprechend mit bestimmten Verben in festen Verbindungen, die als Funktionsverbgefüge bezeichnet werden und auf konzeptionelle Schriftlichkeit verweisen: *etwas zum Ausdruck bringen*, *Ausdruck finden*, *etwas Ausdruck verleihen*.

hen/geben, Bekenntnis ablegen, Verständnis aufbringen, jemandem eine Aufgabe stellen. Auch schriftsprachlich klingende vorangestellte erweiterte Partizipialattribute in diesen und ähnlichen verbalen Fügungen finden sich in dieser Zeit: *Das Entscheidende aber bleibt stets, daß er dem Gesamtzweck der gestellten Aufgabe eine entsprechende und ihn klar zum Ausdruck bringende Form gibt* (Rede vom 11. 09. 1935). Die typischen Lemmata in Phase 2b, also nach der Kriegseröffnung, stammen (erwartungsgemäß) aus dem Wortfeld „Krieg“ oder benennen die Kriegesgegner: *Krieg* (LLR: 244,43), *Wehrmacht* (LLR: 304,03), *Luftwaffe* (LLR: 163,67), *Soldat* (LLR: 288,72), *polnisch* (LLR: 163,67), *britisch* (LLR: 298,22), *Churchill* (LLR: 222,00) und *Roosevelt* (LLR: 220,63).